第２部

教員・学習者編

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的と位置づけ

日本独文学会では、2012 年度よりドイツ語教育の実態調査を実施することとした。その目的は、日本のドイツ語教育の将来のあり方を考えるため、全国の大学・短期大学・高等専門学校・高等学校におけるドイツ語の学習者数をはじめ、各教育機関での授業カリキュラムなど、ドイツ語教育の現状を明らかにしようとする点にある。

この調査プロジェクトは、ドイツ語の授業が開講されている全国の教育機関を対象とした全数調査である第 1 回調査と、ドイツ語教員を対象とした標本調査およびドイツ語学習者を対象とした標本調査を同時に行う第 2 回調査からなる。

本調査は、この第 2 回調査にあたる。

第 1 回調査　全国の教育機関を対象とした全数調査(2012 年 11 月 21 日～12 月 14 日実施)
第 2 回調査　ドイツ語教員を対象とした標本調査
　　ドイツ語学習者を対象とした標本調査

２　調査設計

（1）調査対象

全国の教育機関（大学・短期大学・高等専門学校・高等学校）でドイツ語科目を担当している教員、およびその教員のクラスでドイツ語を学んでいる学習者。

（2）対象数…教員（クラス）単位

区分	件数
A　大学	137
B　短期大学	4
C　高等専門学校	6
D　高等学校	7
合　　計	154

（3）調査方法

教員調査…郵送法（郵送配布－郵送回収）

学習者調査…集合調査法

教員に対し、事前に教員および担当クラスの学習者に対するアンケート実施の内諾を得たうえで、教員向け調査票と学習者向け調査票をまとめて発送した。

調査票は、アンケート実施後、教員によって取りまとめられ、レターパックにて返送、回収された。

（4）標本抽出

学科系統・設置主体・地域による割当法[1]

（5）調査期間

2014 年 6 月 6 日～7 月 5 日

3　調査項目

第 2 回調査における調査項目は、以下の通りである。

【教員対象調査】

教員の所属部署、勤務形態、専門分野、ドイツ語教育歴、ドイツ語圏滞在歴、調査対象クラスの種類、人数、学科系統、レベル、重点項目、教材、ドイツ語使用状況、授業形態、教室環境、教員としてやりがいを感じる要素、教える意欲につながる要素　など。

【学習者対象調査】

学科系統、既習言語、ドイツ語の資格・検定試験、ドイツ語圏滞在歴、ドイツ語圏の社会・文化への関心、学習の動機・手段・目標、ドイツ語を学ぶ意義、授業に望むもの、学習への興味、学習意欲の変化、履修後の学習継続への意欲、授業環境に対する意識　など。

[1] 本調査では、以下の手続きにより標本の構成をおこなった。まず、目標とする調査対象数を設定した。次に、2012 年 11 月 21 日から 12 月 14 日にかけて全国の教育機関を対象に実施された第 1 回調査の結果から得られた、学科系統別、設置主体（国立・公立・私立）別、地域（都市圏・地方圏）別の構成比に関する知見を利用し、それぞれの構成比に従い、事前に設定した調査対象数に合わせて、抽出数を割り当てた。標本の抽出は、典型法、機縁法に拠った。

４　回収結果

事前に調査協力について内諾を得ていたため、依頼したすべての教員（154 名）から回答が得られた（有効回収 154 件、無効回収 0 件。有効回収率 100%)。また、すべての教員から、回答済み学習者調査票が返送された（有効回収 3,947 件、無効回収 0 件)。

	教員			学習者		
区分	依頼数	回収数	回収率	回収ｸﾗｽ数	回収率	回収票数
A　大学	137	137	100.0%	137	100.0%	3,450
B　短期大学	4	4	100.0%	4	100.0%	105
C　高等専門学校	6	6	100.0%	6	100.0%	219
D　高等学校	7	7	100.0%	7	100.0%	173
合　　計	154	154	100.0%	154	100.0%	3,947

Ⅱ　調査結果

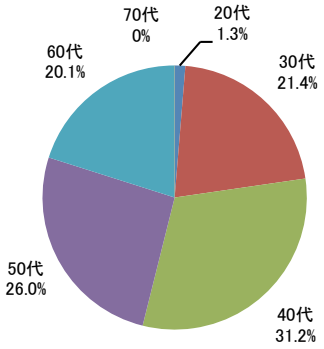
(1) 教員編

Ⅱ　調査結果　（1）教員編

問１　あなたの年齢をお知らせください。（１つに○）

回答者の年齢は、40 代が 31.2%ともっとも多く、次いで 50 代が 26.0%、30 代が 21.4%、60 代が 20.1%となっている。（図表Ⅰ-1）

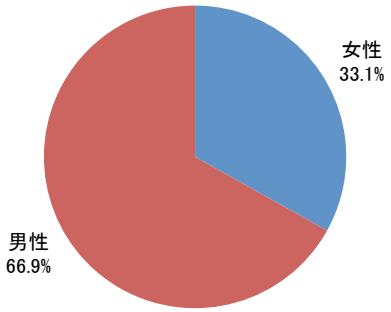
＜図表Ⅰ-1＞年齢　n=154



問２　あなたの性別をお知らせください。（１つに○）

回答者の性別は、男性 66.9%、女性 33.1%となっており、男性教員の割合が多い。（図表Ⅰ-2）

＜図表Ⅰ-2＞性別　n=154



問３　あなたの所属機関の種別をお知らせください。（１つに○）

回答者の所属機関の内訳は、「大学」（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻を除く）が 117 件、「大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）」が 20 件、「短期大学」が 4 件、「高等専門学校」が 6 件、「高等学校」が 7 件であった。（図表Ⅰ-3）

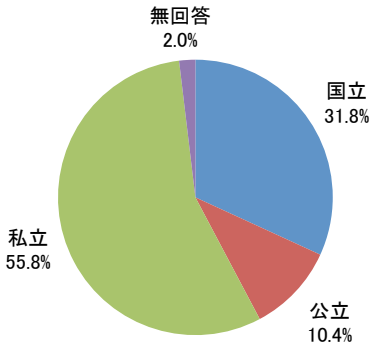
＜図表Ⅰ-3＞所属機関の種別

調査数	大学	大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	短期大学	高等専門学校	高等学校
154	117	20	4	6	7
100.0%	76.0%	13.0%	2.6%	3.9%	4.5%

問４　あなたの所属機関の設置主体をお知らせください。（１つに○）

回答者の所属機関の設置主体は、「私立」が 55.8%と半数を超えており、次いで「国立」が 31.8%、「公立」が 10.4%となっていた。（図表Ⅰ-4）

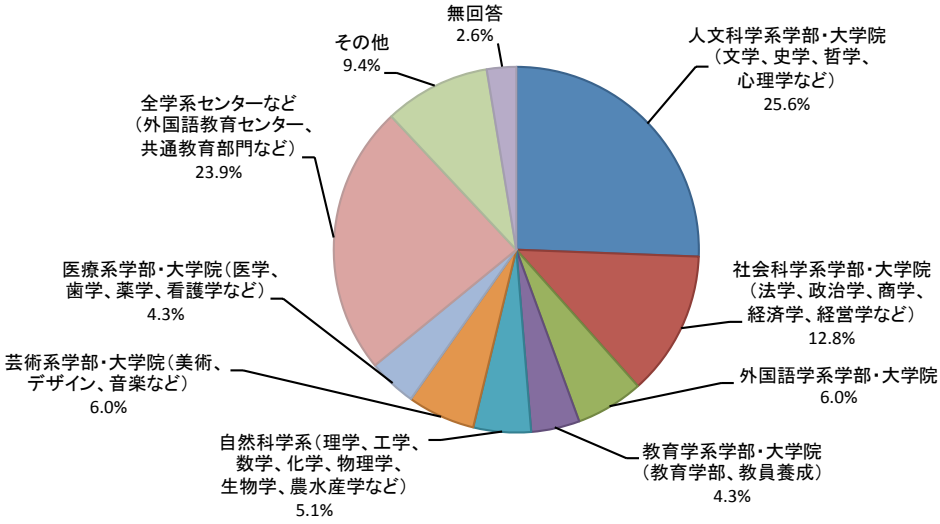
＜図表Ⅰ-4＞所属機関の設置主体　n=154



（問３で「１　大学」と回答した方におたずねします。）
問５　あなたの所属部署をお知らせください。（１つに○）

問３で所属機関の種別を「大学」と回答した教員（117 名）のうち、「人文科学系学部・大学院（文学、史学、哲学、心理学など）」（25.6%）がもっとも多く、次いで「全学系センターなど（外国語教育センター、共通教育部門など）」が 23.9%、続いて「社会科学系学部・大学院（法学、政治学、商学、経済学、経営学など）」が 12.8%となっていた。（図表Ⅰ-5）

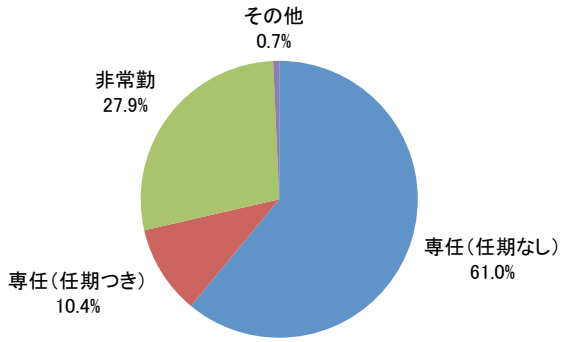
＜図表Ⅰ-5＞所属部署　n=117



【全ての方におたずねします。】
問６　あなたの勤務形態をお知らせください。（１つに○）

回答した教員（154 名）のうち、「専任（任期なし）」が 61.0%と半数を超えており、次いで「非常勤」が 27.9%、「専任（任期つき）」が 10.4%となっている。（図表Ⅰ-6）

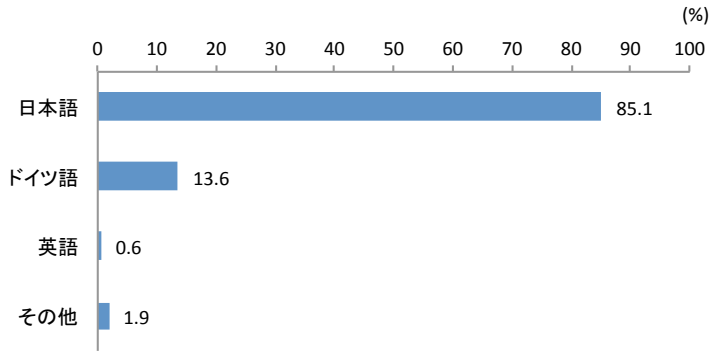
＜図表Ⅰ-6＞勤務形態　n=154



問７　あなたの母語をお知らせください。（複数回答可）

回答した教員（154 名）のうち、日本語を母語とする教員が多数を占めており（85.1%）、ドイツ語を母語とする教員は 13.6%、英語を母語とする教員は 0.6%となっている。「その他」と回答した教員も 1.9%いた。（図表Ⅰ-7）

＜図表Ⅰ-7＞母語　n=154

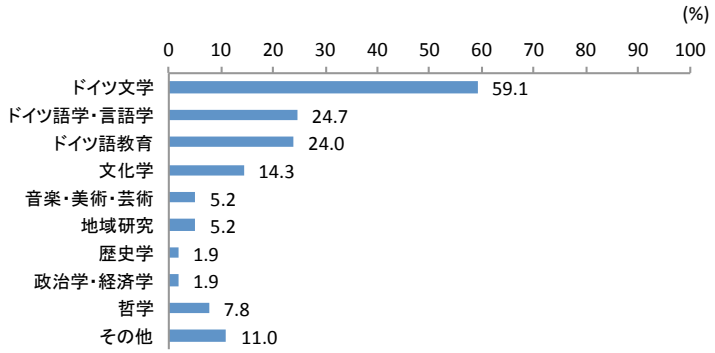


問８　あなたの専門分野をお知らせください。（複数回答可）

回答した教員（154 名）のうち、「ドイツ文学」を専門分野として挙げた教員が半数以上（59.1%）を占めた。次いで「ドイツ語学・言語学」（24.7%）、「ドイツ語教育」（24.0%）、「文化学」（14.3%）、「哲学」（7.8%）、「音楽・美術・芸術」、「地域研究」（いずれも 5.2%）となっており、若干数であるが「歴史学」「政治学・経済学」（いずれも 1.9%）と回答した教員もいた。

なお、「その他」と回答した教員が 11.0%おり、その中には専門分野として「日本学」、「日本文学」などが挙げられていた。（図表Ⅰ-8）

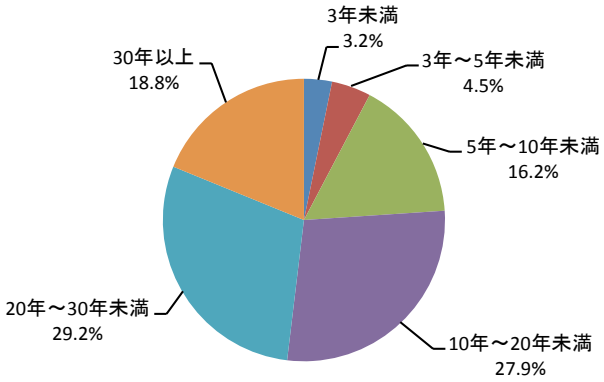
＜図表Ⅰ-8＞専門分野　n=154



問９　あなたのドイツ語の教育歴をお知らせください。（１つに○）

ドイツ語の教育歴をたずねたところ、「20 年～30 年未満」（29.2%）がもっとも多く、次いで「10 年～20 年未満」(27.9%)、さらに「30 年以上」(18.8%)、「5 年～10 年未満」(16.2%)、「3 年～5 年未満」（4.5%)、「3 年未満」（3.2%）と続いている。（図表Ⅰ-9）

＜図表Ⅰ-9＞ドイツ語の教育歴　n=154



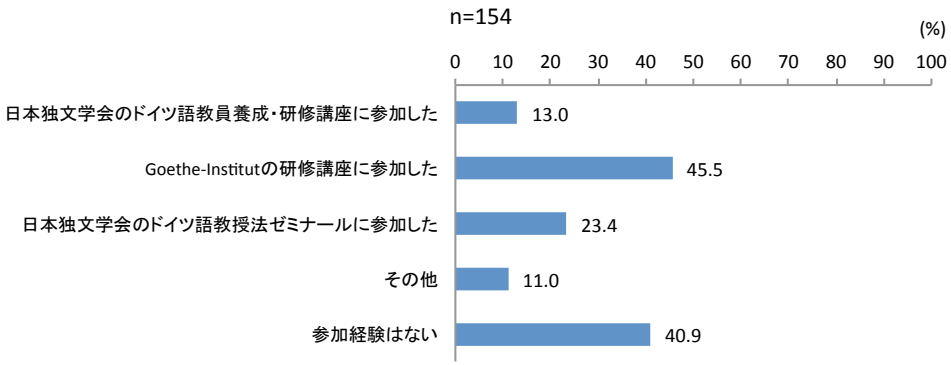
問 10　あなたの教員養成・研修講座への参加経験をお知らせください。（複数回答可）

教員養成・研修講座への参加経験をたずねたところ、「Goethe-Institut の研修講座に参加した」が 45.5%ともっとも多く、次いで「日本独文学会のドイツ語教授法ゼミナールに参加した」が 23.4%、「日本独文学会のドイツ語教員養成・研修講座に参加した」が 13.0%、「参加経験はない」が 40.9%であった。

なお、「Goethe-Institut の研修講座」には、ドイツ国内で行われている 2～4 週間の研修講座、東京・大阪の Goethe-Institut で開催される 1～2 日の短期研修、Goethe-Institut のドイツ語教師養成コースなどがある。

また、「その他」としては、かつての文部省が行っていたドイツ語教員研修講座、DAAD による研修などが挙げられていた。（図表Ⅰ-10）

＜図表Ⅰ-10＞教員養成・研修講座への参加経験

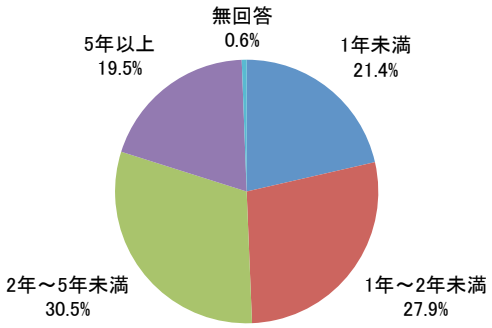


問 11　あなたのドイツ語圏滞在歴（合計滞在期間；ただし旅行は除く）をお知らせください。（1 つに○）

ドイツ語圏滞在歴をたずねたところ、「2 年～5 年未満」が 30.5%ともっとも多く、次いで、「1 年～2 年未満」が 27.9%、「1 年未満」が 21.4%、「5 年以上」が 19.5%となっている。

なお、「5 年以上」と答えた回答者にはドイツ語母語話者が含まれており、ドイツ語非母語話者で「5 年以上」のドイツ語圏滞在歴を持つ者は、回答者（154 名）のうち、5.8%であった。（図表 I -11）

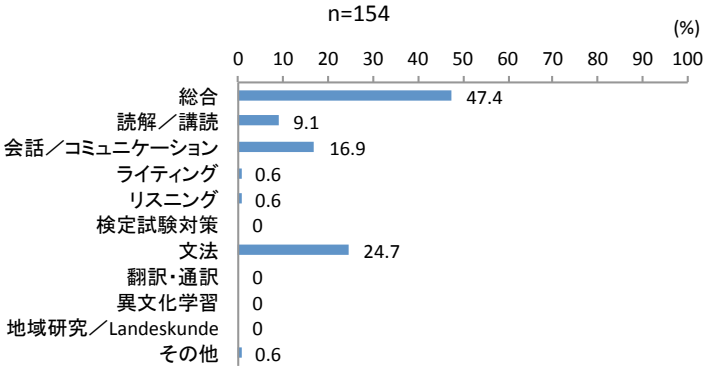
＜図表 I -11＞ドイツ語圏滞在歴　n=154



問 12　調査対象クラスの種類をお知らせください。以下の中から授業の趣旨に最も近い種類を 1 つだけ選んで番号に○をつけてください。（1 つに○）

調査対象クラスの種類をたずねたところ、その内訳は「総合」が 47.4%、「文法」が 24.7%、「会話・コミュニケーション」が 16.9%、「読解・講読」が 9.1%、「ライティング」「リスニング」はそれぞれ 0.6%であった。（図表 I -12）

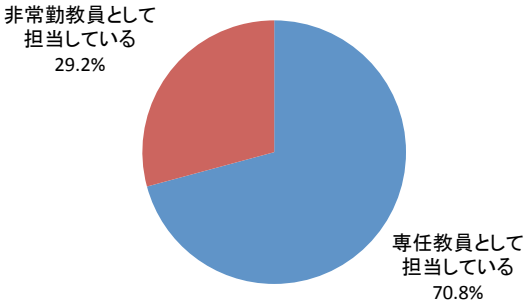
＜図表 I -12＞調査対象クラスの種類



問 13　調査対象クラスは、専任教員（任期つきの場合も含む）として担当していますか。
それとも、非常勤教員として担当していますか。（１つに○）

調査対象クラスにおける回答者の勤務形態をたずねた。その結果、「専任教員（任期つきの場合も含む）としての担当」が 70.8%、「非常勤教員としての担当」が 29.2%であった。（図表Ⅰ-13）

＜図表Ⅰ-13＞調査対象クラスでの勤務形態
n=154

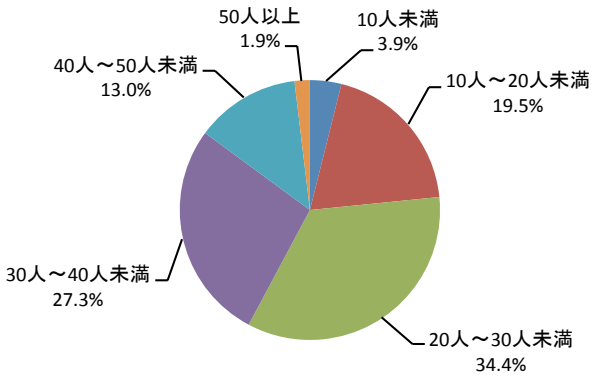


問 14　調査対象クラスの人数をお知らせください。（１つに○）

調査対象クラスの人数をたずねたところ、「20 人～30 人未満」が 34.4%ともっとも多く、次いで「30 人～40 人未満」が 27.3%、「10 人～20 人未満」が 19.5%、「40 人～50 人未満」が 13.0%、「10 人未満」が 3.9%、「50 人以上」のクラスは 1.9%であった。

30 人未満のクラスが 6 割弱（57.8%）を占める一方、40 人以上のクラスも合計 14.9%あった。（図表Ⅰ-14）

＜図表Ⅰ-14＞調査対象クラスの人数
n=154

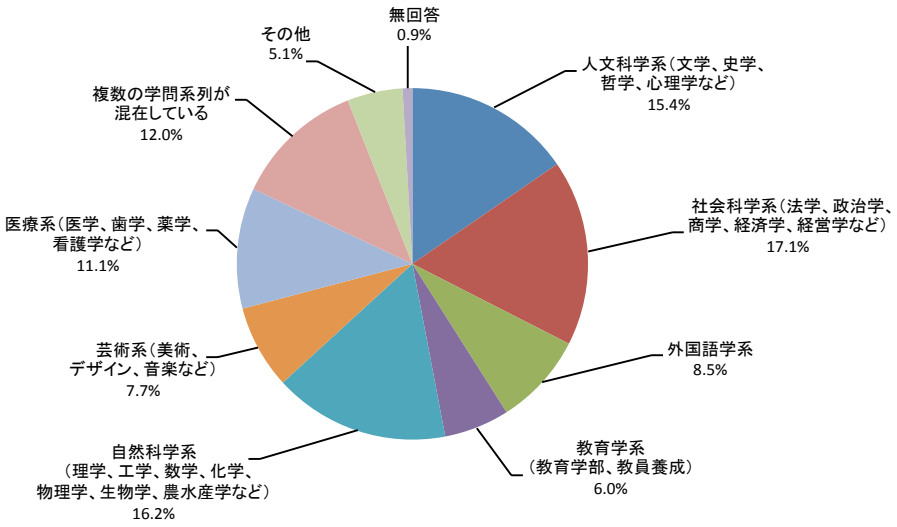


（問３で「１　大学」と回答した方におたずねします。）
問 15　調査対象クラスの学問系列をお知らせください。（１つに○）

問 15 では、問 3 で所属機関の種別を「大学」と回答した教員（117 名）に対し、調査対象クラスの学問系列をたずねた。

その結果、「社会科学系（法学、政治学、商学、経済学、経営学など）」（17.1%）、「自然科学系（理学、工学、数学、化学、物理学、生物学、農水産学など）」（16.2%）、「人文科学系（文学、史学、哲学、心理学など）」（15.4%）が多く、次に「医療系（医学、歯学、薬学、看護学など）」（11.1%）が続いている。また、「複数の学問系列が混在している」クラスは 12.0%だった。（図表Ⅰ-15）

＜図表Ⅰ-15＞調査対象クラスの学問系列
n=117



【全ての方におたずねします。】

問 16　調査対象クラスの学年をお知らせください。（複数回答可）

問 16 では調査対象クラスの学年をたずねた（複数回答可）。

カテゴリー別にみると、「大学」（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻を除く）では 1 年次生が 58.1%ともっとも多く、2 年次生は 18.8%、学年混合クラスは 23.1%だった。

大学のうち、「独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻」では、1 年次生が 50.0%、2 年次生が 15.0%、3 年次生が 5.0%、学年混合クラスが 30.0%だった。

「短期大学」では 1 年次生が 25.0%、2 年次生が 75.0%、「高等専門学校」では 1 年次生が 16.7%、4 年次生は 83.3%、「高等学校」では 1 年次生が 28.6%、2 年次生が 57.1%、学年混合クラスが 14.3%となった。（図表Ⅰ-16）

＜図表Ⅰ-16＞調査対象クラスの学年

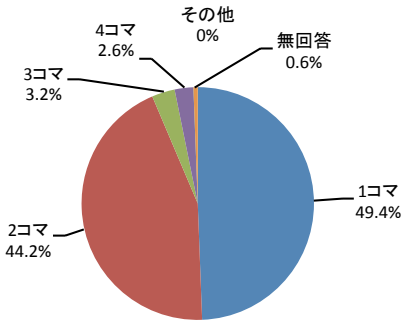
	調査数	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	5年次以上	学年混合
大学	117	68	22	0	0	0	27
	100.0%	58.1%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%
大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	20	10	3	1	0	0	6
	100.0%	50.0%	15.0%	5.0%	0.0%	0.0%	30.0%
短期大学	4	1	3	0	0	0	0
	100.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高等専門学校	6	1	0	0	5	0	0
	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	83.3%	0.0%	0.0%
高等学校	7	2	4	0	0	0	1
	100.0%	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%

問 17　調査対象クラスの週あたりのコマ数をお知らせください。（1 つに○）
※　1 コマの長さ　（　　）分

調査対象クラスの週あたりのコマ数は、1 コマが 49.4%、2 コマが 44.2%、3 コマが 3.2%、4 コマが 2.6%だった。（図表 I -17a）

ただし 1 コマの長さは 45 分～100 分と幅がある。多くの場合 1 コマ 90 分で行われている（129 件）が、1 コマ 45 分（2 件）、50 分（5 件）、60 分（1 件）、75 分（2 件）、100 分（1 件）で行われているケースもあった。（図表 I -17b）

＜図表 I - 17a＞調査対象クラスの週あたりのコマ数
n=154



＜図表 17b＞1 コマの長さ

1 コマの長さ	1 コマ	2 コマ	3 コマ	4 コマ	その他	無回答	計
45 分	0	1	1	0	0	0	2
50 分	1	3	0	1	0	0	5
60 分	1	0	0	0	0	0	1
75 分	1	1	0	0	0	0	2
90 分	62	61	3	2	0	0	129
100 分	0	0	0	1	0	0	1
無回答	11	2	1	0	0	1	14
計	76	68	5	4	0	1	154

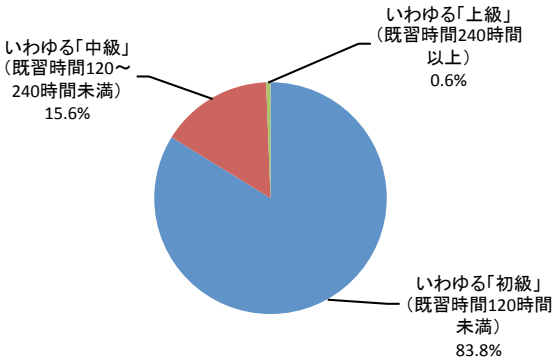
問 18　調査対象クラスのレベルをお知らせください。（１つに○）

調査対象クラスのレベルを、授業開始時点での履修者のこれまでの授業における学習時間の合計によりたずねた。学習時間の合計（既習時間）の計算例は以下の通りである。

90 分授業が週 2 回で半期 15 週の場合：1.5 時間 ×2 回 ×15 週 ＝45 時間
90 分授業が週 2 回で通年 30 週の場合：1.5 時間 ×2 回 ×30 週 ＝90 時間

結果、いわゆる「初級」（既習時間 120 時間未満）が 83.8%、「中級」（既習時間 120～240 時間未満）が 15.6%、「上級」（既習時間 240 時間以上）が 0.6%であった。（図表Ⅰ-18）

＜図表Ⅰ-18＞　調査対象クラスのレベル
n=154



問 19　調査対象クラスの授業では、どのようなことに特に重点を置いていますか。以下の中から最大３つを選んで番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

調査対象クラスの授業で特に重点を置いていることを、18 の選択肢を提示してたずねた。3 つまでの複数回答を可とした。

もっとも多かった回答は「文法についての知識」であり、3 分の 2 に近い教員（64.3%）が文法を重視していることがわかる。次に多いのは「日常的な会話」であり、半数を超える教員（50.6%）が当該クラスの授業の重点としている。続いて「ドイツ語圏の社会・文化に関する知識」を約 3 割（31.8%）の教員が挙げている。

4 技能別にみると、まず読む力について、「正確に読み解く」がおよそ 4 分の 1（25.3%）のクラスの重点となっている。ほかに、「大意をつかんで読む」（9.7%）、「日本語に訳す」（7.1%）、「新聞・雑誌の記事が読める」（2.6%）、「詩や小説などの文学作品を楽しむ」（0.6%）がある。

聞き取りについては、「聞いた内容を大まかに理解する」が 18.2%、「正確に聞き取る」

が 4.5%であった。

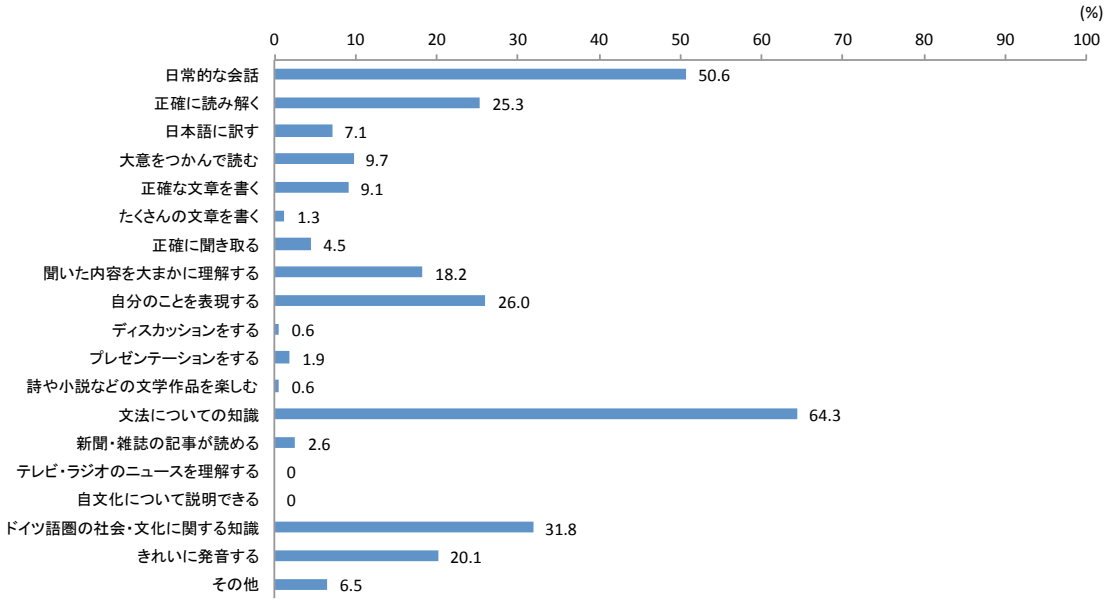
書く能力については、「正確な文章を書く」（9.1%）、「たくさんの文章を書く」（1.3%）がクラスで重点とされている。

話す力に関しては、約 2 割（20.1%）のクラスで「きれいに発音する」が重視されている。

そのほか、「自分のことを表現する」が 26.0%、「プレゼンテーションをする」が 1.9%、「ディスカッションをする」が 0.6%となっている。

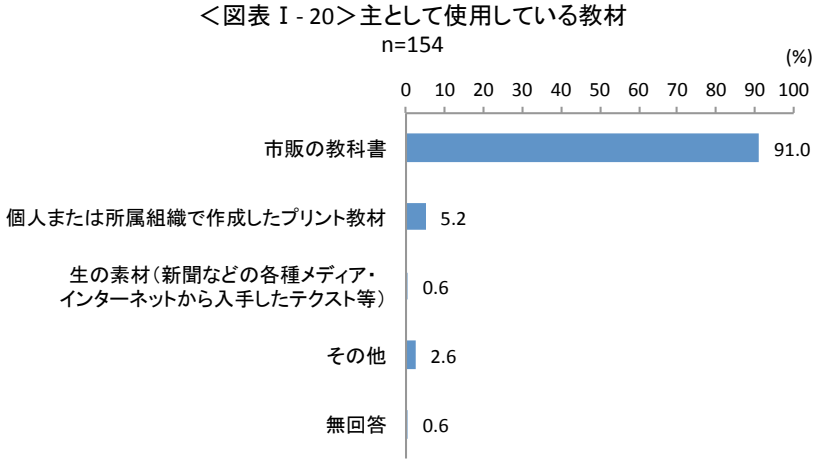
なお、「テレビ・ラジオのニュースを理解する」、「自文化について説明できる」は、それぞれ 0%であった。（図表Ⅰ-19）

＜図表Ⅰ-19＞調査対象クラスの授業で特に重点を置いていること n=154



問 20　調査対象クラスでは、教材は主としてどんなものを使用していますか。（1 つに○）

＜図表Ⅰ-20＞主として使用している教材

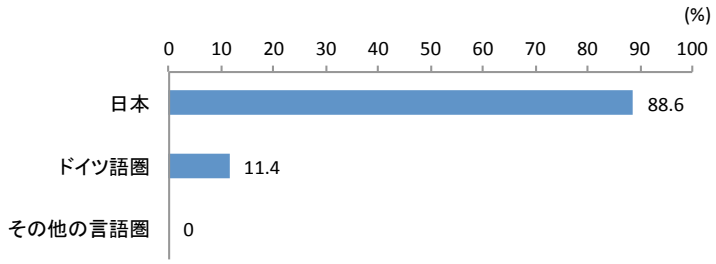


問 20 では授業で使用している教材についてたずねた。大多数の教員（91.0%）が市販の教材を使い、5.2%の教員が「個人または所属組織で作成したプリント教材」を使っている。「その他」の回答の中には、「ビデオ教材」、「マルチメディア学習ソフト」、「学生が書いた文章」、「電子書籍」などがあった。（図表Ⅰ-20）

（問 20 で「１　市販の教科書」と回答した方におたずねします。）
問 20-1　使用している教科書は、どこで出版されたものですか。（１つに○）

問 20 で「市販の教科書」と回答した教員に対し、その出版地をたずねた。その結果、88.6%が日本で出版された教科書を使用しており、ドイツ語圏の教科書を使用しているクラスは 11.4%であった。（図表Ⅰ-20-1）

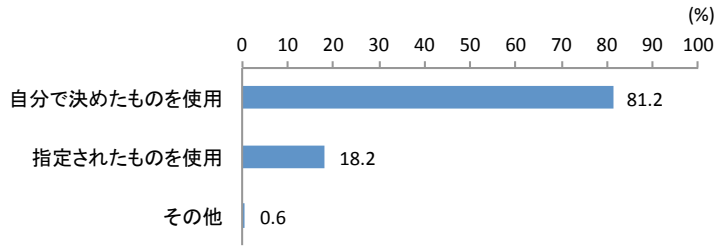
＜図表Ⅰ-20-1＞使用している教科書の出版地　n=140



【全ての方におたずねします。】
問 21　調査対象クラスでは、教材は自分で決めたものを使用していますか。それとも、指定されたものを使用していますか。（１つに○）

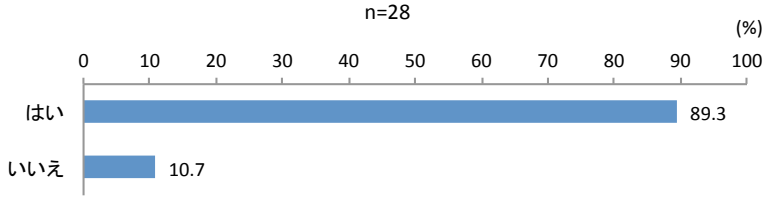
大多数のクラスでは、担当教員が決めた教材を使用している（81.2%）。それに対して、指定された教材を使用しているクラスは 18.2%であった。（図表Ⅰ-21）

＜図表Ⅰ-21＞調査対象クラスの教材　n=154



（問 21 で「２　指定されたものを使用」と回答した方におたずねします。）
問 21-1　教材は、他のクラスと共通の統一教材ですか。（１つに○）

＜図表Ⅰ - 21-1＞「他のクラスと共通の統一教材を使用している」
n=28



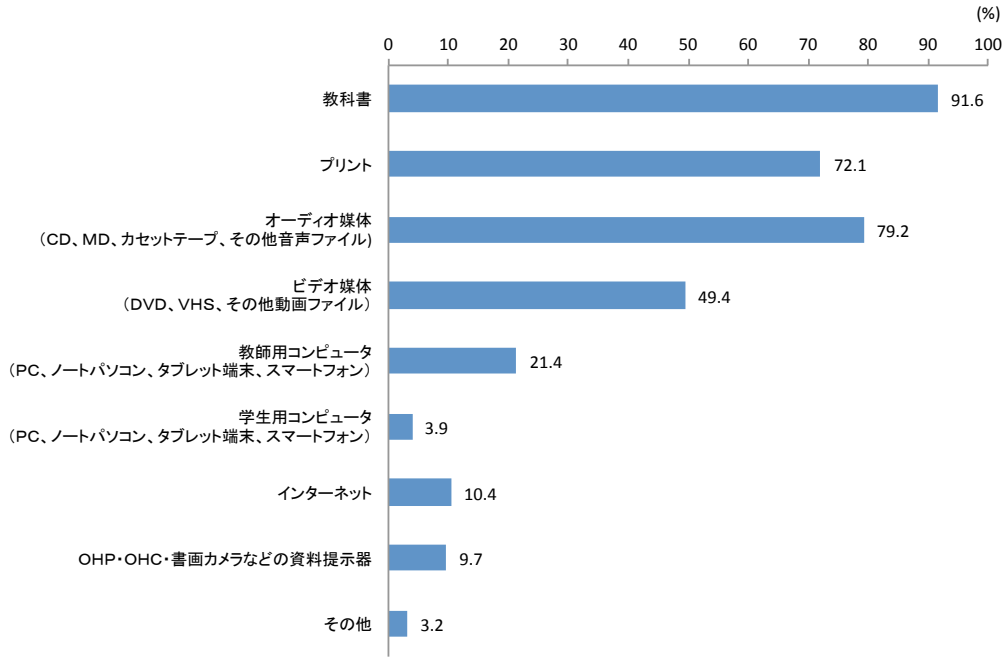
問 21 で「指定されたものを使用している」と答えた回答者に、それが他のクラスと共通の統一教材であるかをたずねたところ、「はい」が 89.3%、「いいえ」が 10.7%であった。（図表Ⅰ-21-1）

【全ての方におたずねします。】
問 22　調査対象クラスでは、授業において主にどのようなメディア（媒体）を使用していますか。（複数回答可）

調査対象クラスでどのようなメディア（媒体）を使用しているかをたずねたところ、もっとも多かったのは「教科書」で、ほとんど（91.6%）のクラスで使用されている。次いで「オーディオ媒体（CD、MD、カセットテープ、その他音声ファイル）」が 79.2%、「プリント」が 72.1%、ビデオ媒体（DVD、VHS、その他動画ファイル）が 49.4%と続いている。

一方、授業におけるコンピュータの使用については、教師用が 21.4%、学生用が 3.9%、またインターネットの使用は 10.4%であった。「その他」の回答には、「電子黒板」、「学生全員分の IC レコーダー」、「遠隔配信システム」、「ゲーム」などがあった。（図表Ⅰ-22）

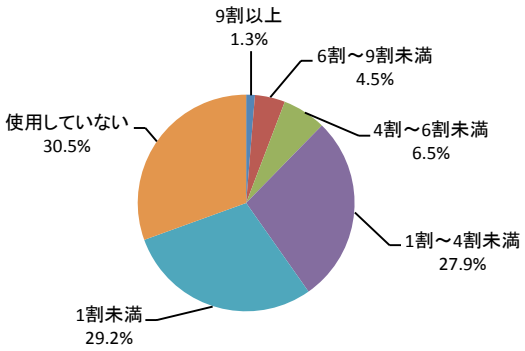
＜図表Ⅰ - 22＞調査対象クラスで授業において主に使用しているメディア（媒体）
n=154



問 23　調査対象クラスでは、授業においてドイツ語をどの程度使用していますか。（練習や課題そのものではなく、説明部分や学習者への指示などにおいて）（１つに○）

調査対象クラスの授業で、練習や課題そのものでなく、説明部分や学習者への指示などにおいてドイツ語をどの程度使用しているかをたずねたところ、「使用していない」が 30.5%、「1 割未満」が 29.2%であった。続いて、「1 割～4 割未満」が 27.9%、「4 割～6 割未満」が 6.5%、6 割～9 割未満が 4.5%、「9 割以上」が 1.3%という結果となった。（図表 I -23a）

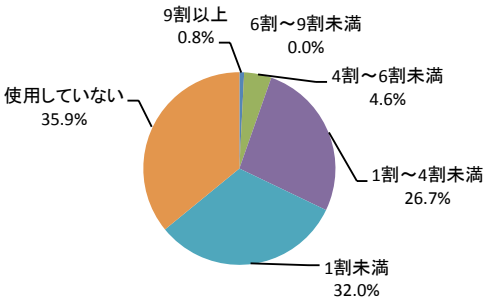
＜図表 I - 23a＞調査対象クラスの授業における
ドイツ語の使用状況　n=154



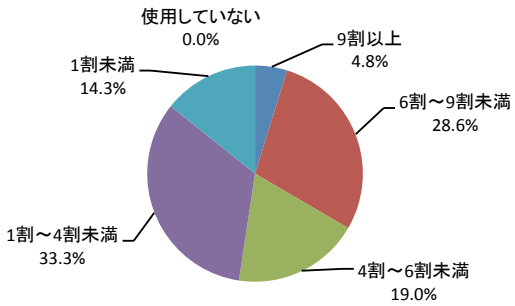
母語話者別にみると、日本語母語話者の場合、「使用していない」が 35.9%ともっとも多く、次いで「1 割未満」が 32.0%、「1 割～4 割未満」が 26.7%となっている。「4 割～6 割未満」は 4.6%、「9 割以上」は 0.8%と低い値を示した。「6 割～9 割未満」と回答した者はいなかった。（図表 I -23b）

一方、ドイツ語母語話者の場合、もっとも多かったのは「1 割～4 割未満」（33.3%）であり、次いで「6 割～9 割未満」（28.6%）、「4 割～6 割未満」（19.0%）、「１割未満」（14.3%）、「9 割以上」（4.8%）と続いた。「使用していない」と回答した者はいなかった。（図表 I -23c）

＜図表 I -23b＞調査対象クラスの授業における
ドイツ語の使用状況（日本語母語話者）
n=131



＜図表 I - 23c＞調査対象クラスの授業における
ドイツ語の使用状況（ドイツ語母語話者）
n=21

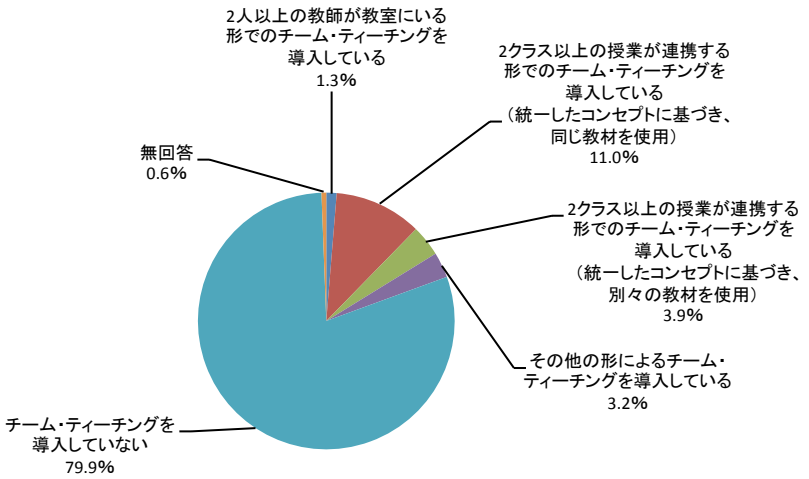


問 24　調査対象クラスでは、チーム・ティーチングを導入していますか。（１つに○）

調査対象クラスの 8 割近く（79.9%）が、「チーム・ティーチングを導入していない」という回答だった。

一方、「導入している」という回答の中では、「2 クラス以上の授業が連携する形でのチーム・ティーチングを導入している（統一したコンセプトに基づき、同じ教材を使用)」がもっとも多く（11.0%)、次いで「2 クラス以上の授業が連携する形でのチーム・ティーチングを導入している（統一したコンセプトに基づき、別々の教材を使用)」(3.9%)、さらに「その他の形によるチーム・ティーチングを導入している」(3.2%）と続き、「2 人以上の教師が教室にいる形でのチーム・ティーチングを導入している」という回答は、1.3%にとどまった。（図表Ⅰ-24）

＜図表Ⅰ-24＞調査対象クラスのチーム･ティーチングの導入状況　n=154

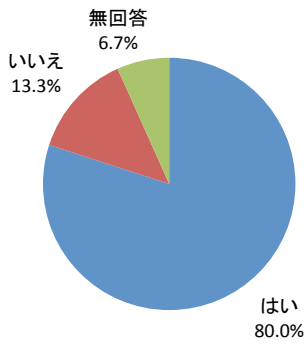


（問 24 で「１」～「４」と回答した方におたずねします。）

問 24-1　現在おこなっているチーム・ティーチングに満足していますか。又、そのようにお答えになられた理由はどのようなことでしょうか。（１つに○。それぞれについて理由も回答）

「チーム・ティーチングを導入している」調査対象クラスにおいては、8 割の教員がこれに「満足している」という回答であり、「満足していない」という回答（13.3%）を大きく上回った。（図表Ⅰ-24-1）

＜図表Ⅰ - 24–1＞「現在のチーム・ティーチングに満足している」
n=30



これらの回答の理由として、計 25 件の記述が寄せられた。そのうち 21 件の「チーム・ティーチングに満足している」ことの理由として、パートナーとの良好な関係や密な連絡、授業の制度設計や役割分担、アプローチの多面性、学生の意欲向上が挙げられていた。4 件の「満足していない」ことの理由は、連携の難しさ、教材の不統一、授業方法への疑問に大別される。

以下に、寄せられた回答の一部を原文のまま、または文意が損なわれない範囲で字句等を修正したうえで、内容別に記載する。

■　パートナーとの良好な関係や密な連絡

○　パートナー教員との関係が良好で、コミュニケーションもとてもうまくいっている。
○　パートナー教師と連絡を密に、バランスのとれた授業ができる。
○　メール等で進度確認、クラスの雰囲気を把握できるようになっている。

■　授業の制度設計や役割分担

○　受講学生の人数調整が可能で、教材の自由度も高い。
○　週 4 回あり、担当が決められている。ほとんど報告せずとも上手く進む。ただし、あまり自由に何かを投入する余裕がないのが少々残念。

○ リレー式でうまく行っている。
○ 文法中心と文化中心で連携。
○ ネイティブ教員 1 コマ、日本人教員 1 コマでバランスが良い。

■ アプローチの多面性
○ 同じ教材でもプリントを配布したり、DVD を見たり、教える側にそれぞれの個性が現れ、その違いが学習者に特に学習意欲と理解度の点で、ポジティブな影響を与えているので。
○ 二つの角度から説明するのも悪くないように思う。

■ 学生の意欲向上
○ 学生の意欲が高まり、以前よりも効率よく学んでいる。
○ ほとんどの生徒がドイツ人やドイツについての生の情報を経験していないので、良い刺激となっている。

■ 連携の難しさ
○ 2 つの授業で引き継ぎをするのが難しく思う時がある。(定期試験の内容は、口頭テストのクラスと筆記テストのクラスに分けられている。)
○ 一方から他方へのフィードバックが少ない。

■ 教材の不統一
○ パートナー教員との連携には満足しているが、同じ教材を連携して使った方が教育効果が高いかもしれない。

■ 授業方法への疑問
○ 学生のウケが重要になっており、基礎力がつかない。

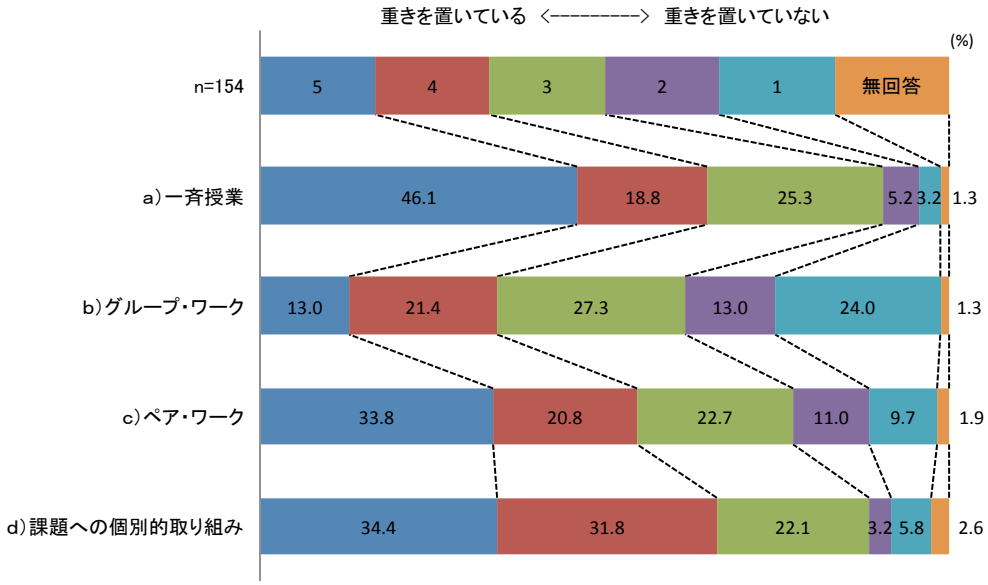
【全ての方におたずねします。】

問 25　調査対象クラスでは、どのような授業形態に重きを置いていますか。それぞれについて、５（重きを置いている）～１（重きを置いていない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

クラスでどのような授業形態に重きを置いているかを、「一斉授業」「グループ・ワーク」「ペア・ワーク」「課題への個別的取り組み」の 4 項目について、「５（重きを置いている）～１（重きを置いていない)」の 5 件法でたずねた。

各項目で「5」「4」と回答した人数の割合を合計したところ、「一斉授業」（64.9%, 平均値 3.97)、「課題への個別的な取り組み」（66.2%, 平均値 3.88）の 2 項目が 60%を超える値を示したのに対し、「グループ・ワーク」（平均値 2.80）は 34.4%と他の項目と比べて低い値となった。（図表Ⅰ-25a, Ⅰ-25b）

＜図表Ⅰ-25a＞調査対象クラスで重きを置いている授業形態



＜図表Ⅰ-25b＞調査対象クラスで重きを置いている授業形態：平均値

	平均値	標準偏差
a) 一斉授業	3.97	1.12
b) グループ・ワーク	2.80	1.34
c) ペア・ワーク	3.58	1.35
d) 課題への個別的取り組み	3.88	1.09

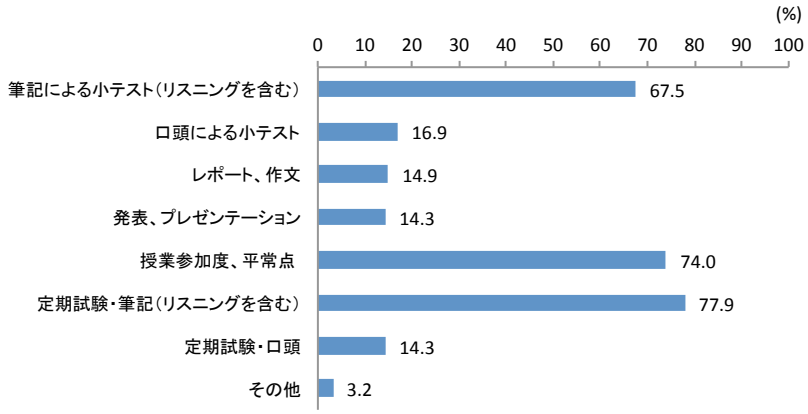
問 26　調査対象クラスでは、どのような方法で成績評価をつけていますか。評価の根拠としているものをお答えください。（複数回答可）

調査対象クラスの成績評価の方法についてたずねた。

もっとも多かったのは「定期試験・筆記（リスニングを含む）」（77.9%）であり、そのほか「授業参加度、平常点」（74.0%）、「筆記による小テスト（リスニングを含む）」（67.5%）が高い割合を示した。

他に「口頭による小テスト」（16.9%）、「レポート、作文」（14.9%）、「発表、プレゼンテーション」（14.3%）、「定期試験・口頭」（14.3%）が評価の方法として使われている。（図表Ⅰ-26）

＜図表Ⅰ-26＞調査対象クラスの成績評価方法　n=154

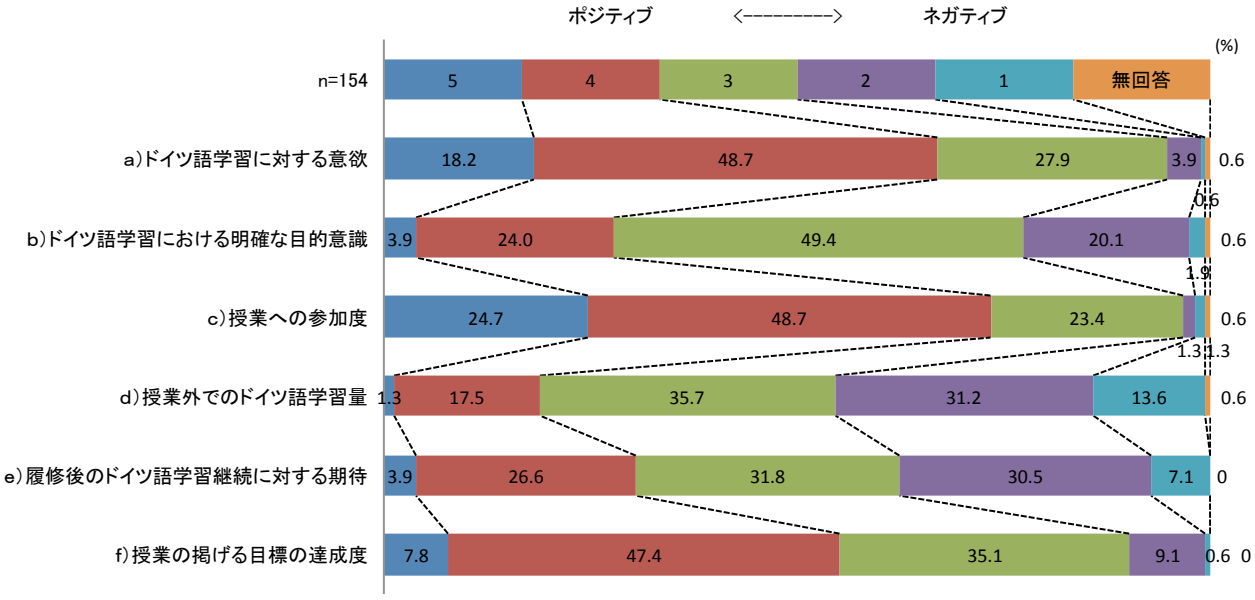


問 27　調査対象クラスの学習者について、全体としてどのような印象を持っていますか。それぞれについて、５（ポジティブ）～１（ネガティブ）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

クラスの学習者に対する印象を、「ドイツ語学習に対する意欲」「ドイツ語学習における明確な目的意識」「授業への参加度」「授業外でのドイツ語学習量」「履修後のドイツ語学習継続に対する期待」「授業の掲げる目標の達成度」の 6 項目について、「５（ポジティブ）～１（ネガティブ）」の 5 件法でたずねた。

各項目で「5」「4」と回答した人数の割合を合計したところ、「授業への参加度」（73.4%, 平均値 3.95）、「ドイツ語学習に対する意欲」（66.9%, 平均値 3.80）の 2 項目が 60%を超える値を示したのに対し、「授業外でのドイツ語学習量」（平均値 2.62）は 18.8%と他の項目と比べて低い値となった。（図表Ⅰ-27a, Ⅰ-27b）

＜図表Ⅰ-27a＞調査対象クラスの学習者に対する印象



＜図表Ⅰ-27b＞調査対象クラスの学習者に対する印象：平均値

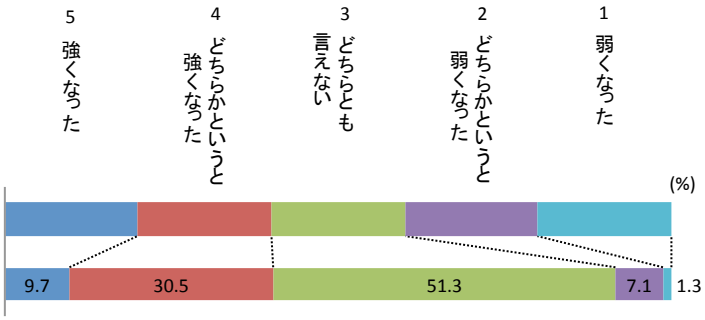
	平均値	標準偏差
a) ドイツ語学習に対する意欲	3.80	0.81
b) ドイツ語学習における明確な目的意識	3.07	0.83
c) 授業への参加度	3.95	0.81
d) 授業外でのドイツ語学習量	2.62	0.98
e) 履修後のドイツ語学習継続に対する期待	2.90	1.01
f) 授業の掲げる目標の達成度	3.52	0.79

問 28　調査対象クラスの学習者の意欲は、4 月の学習開始時期と比較して、変化したと感じますか。該当する番号を〇で囲んでください。（１つに〇）

ここでは、授業開始時期から約 3 か月後の調査実施時点における教員から見た学習者の意欲の変化をたずねた。

「どちらとも言えない」という回答が約半数（51.3%）を占める一方、学習者の意欲が強くなったと感じている教員は、「強くなった」（9.7%）、「どちらかというと強くなった」（30.5%）をあわせて約 4 割、弱くなったと感じている教員は、「弱くなった」（1.3%）、「どちらかというと弱くなった」（7.1%）をあわせて 1 割弱であった。（図表Ⅰ-28）

＜図表Ⅰ-28＞調査対象クラスの学習者の意欲に対する印象



（問 28 で「５」か「４」と答えた方におたずねします。）
問 28-1　意欲が強くなった理由や原因はどこにあると思いますか。

学習者の意欲が「強くなった」、「どちらかというと強くなった」ことの理由として、61 件の記述が寄せられた。これらを大別すれば、学生のドイツ語能力の向上や授業への慣れ、グループワークなど学生間の協調、教員の授業運営や工夫、留学情報やドイツ語圏の文化情報の提供、また英語との関係を理由として指摘する記述も見られた。

以下に、寄せられた回答の一部を原文のまま、または文意が損なわれない範囲で字句等を修正したうえで、内容別に記載する。

■　学生のドイツ語能力の向上や授業への慣れ

○　ドイツ語の扱い方やコミュニケーション時のやりとりの仕方がだんだん分かってきて、納得度が増した。またクラスメイトの様子、雰囲気に慣れ、学習に集中できるようになったからだと考える。

○　読解、聞き取りなど、いろいろな面で自身のドイツ語力の向上を感じられるからではないかと思う。

○　元々ドイツ語を第一希望として履修している、ドイツの歴史・文化に興味のある学生が、「きまり事」としての学習事項に慣れる事で、学習の方向性を自覚し始めた。

○ ドイツ語は難しいというイメージから来る不安が少なくなり、勉強すれば「できる」という気持ちが芽生えた。

■ グループワークなど学生間の協調

○ 学生同士のコミュニケーションによるモティベーションの高め合い。
○ ペアワークなどを通して、ドイツ語で伝え合うことを楽しんでいるから。
○ グループワークによる相乗効果、ネイティブと日本人教員による動機づけが機能している。

■ 教員の授業運営や工夫

○ 中間テスト後に結果について講評し、講読よりも文法復習の時間配分を増やすなど、より学生に合わせた進め方に変え、「できるようになってほしいこと」をはっきり伝えたからだと思う。
○ 音読について積極的に練習してきた学生に、発表の機会を与え評価に加えることがこのクラスでは良いモティベーションになっている。
○ クラス旅行、授業外の活動（カーニバル、ドイツ料理、パーティーなど)。

■ 留学情報やドイツ語圏の文化情報の提供

○ 留学情報やドイツ語圏の文化情報を授業中に発信することで、学習のモティベーションの向上を図ったことによる。
○ 授業中に視聴させた DVD 等でドイツ語圏の社会や文化に対する関心が強くなった。
○ 学んでいくにつれ、知らなかった色々なものが見え、期待や関心を抱くようである。ユーロ（€）や都市文化など、生活に結びついた知識は特に彼らの中では自分の将来像（夢）と結びついて、イメージされやすくきちんとリアリティーのある学習内容、アクティヴに使えそうな知識内容を与えれば、一定の意欲向上は期待できるものと考えている。
○ 昨年度は大阪のゲーテ・インスティトゥートからの学習支援として、様々なイベントやプロジェクトが実施され、またドイツのギムナジウムから短期留学生が来たこともあり、身近なところでドイツ語やドイツ文化に触れられる機会が増えたことが、大きく影響していると思う。

■ 英語との関係

○ 英語との違いを意識できる。
○ 英語との語源的つながりを知るようになったこと。
○ 英語よりも複雑だが論理的なので学生が面白がってくれる。文化的なものに興味がある。新しいことにチャレンジしているというワクワク感がある。
○ 古典ギリシャ語、ラテン語のアルファベート紹介（仏語、西語も)、それらの言語の単語の発音がよく綴りと一致することを紹介、またそれらのつながりを学生に意識させることで、外国語学習は英語だけでよいとの考えを取り払うことにある程度成功した。

（問 28 で「２」か「１」と答えた方におたずねします。）
問 28-2　意欲が弱くなった理由や原因はどこにあると思いますか。

学習者の意欲が「弱くなった」、「どちらかというと弱くなった」ことの理由としては、12 件の記述が寄せられた。その大半は、学生の興味の欠如や義務感を指摘する記述と、ドイツ語の難しさを指摘する記述であり、若干ではあるが、教員自身の教え方を指摘する記述も見られた。

以下に、寄せられた回答の一部を原文のまま、または文意が損なわれない範囲で字句等を修正したうえで、内容別に記載する。

■　学生の興味の欠如や義務感

○　文法で覚えるべきことが多いと意欲が継続しない学生が年々増加している。そもそもドイツ及びドイツ語に関心を持っていない。
○　当大学では学期が進むとともに、学生達は専門や実習のため欠席だらけになり、意欲を失う。また、ドイツ語は本来から義務だけで当大学の学生のほとんどの知性を超えるから、最初から意欲があまりない。
○　明確な目的を持たない学生が多いので、目先の単位取得にばかり気持ちがいってしまっている。
○　2 年次という中だるみの時期のためと思われる。

■　ドイツ語の難しさ

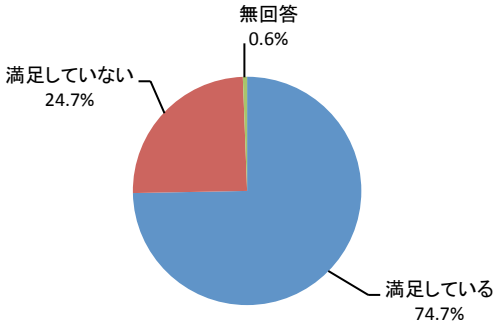
○　ドイツ語が彼らの想像を超えて規則的（＝規則について考えたり、覚えたりする言語）なので、勉強の仕方がよくわからなかったり、あるいは辛さを感じるのだと思う。
○　暗記事項の多さや他クラスとの共通スケジュールでの学習進度の速さで、当初抱いていた新鮮さや興味を失いつつある点、また学生生活に慣れてきて手を抜くことを知ったため。
○　始めのうちはまだ学生たちは熱心に語彙と文法を学んでいる。範囲が広がるにつれ、意欲が減退する。

■　教え方の問題

○　私の教え方がよくない。
○　偏に担当者たる私の不徳の致す所と感じている。私自身に不満を持っていることは、薄々気付いている。

【全ての方におたずねします。】
問 29　調査対象クラスの教室環境には満足していますか。（１つに○）

＜図表Ⅰ-29＞調査対象クラスの教室環境について
n=154



ここでは教室環境に満足しているか否かをたずねた。

教室環境に「満足している」という答えがほぼ 4 分の 3（74.7%）を占め、「満足していない」（24.7%）を大きく上回った。（図表Ⅰ-29）

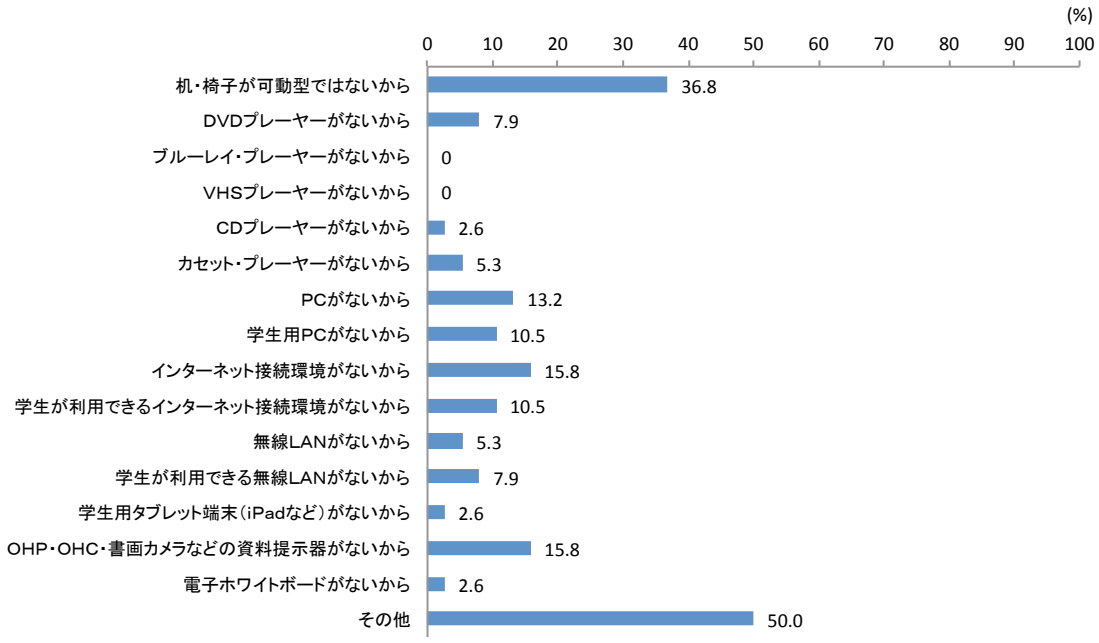
（問 29 で「２　満足していない」と回答した方におたずねします。）
問 29-1　満足していないのはなぜですか。（複数回答可）

問 29 で「満足していない」と答えた 38 名の回答者に対し、その理由をたずねた。

満足していない理由としてもっとも多かったのは、「机・椅子が可動型ではない」（36.8%）であった。そのほか、「インターネット接続環境がないから」（15.8%）、「OHP・OHC・書画カメラなどの資料提示器がないから」（15.8%）、「PC がないから」（13.2%）が続いている。

また、「その他」（50.0%）の中には、「教室の大きさが受講人数に合っていない」「クラスの受講者数が多すぎる」などの理由が挙げられていた。（図表Ⅰ-29-1）

＜図表Ⅰ-29-1＞満足していない理由　n=38



【全ての方におたずねします。】

問 30　日本におけるドイツ語教育では、学習者に何を学ばせることが重要だと思いますか。以下の中から最大 3 つを選んで番号に○をつけてください。(複数回答可。3 つまで○)

日本のドイツ語教育では、学習者に学ばせる内容としてどのようなことを重視すべきであるか、18 の選択肢を提示してたずねた。3 つまでの複数回答を可としている。

もっとも多かった回答は「ドイツ語圏の社会・文化に関する知識」で約半数（51.3%）の教員が重要と考えている。次に多かったのが、「日常的な会話」と「文法についての知識」で、ともに 4 割ほど（40.3%）の教員が重視している。

読解に関する選択肢については、「正確に読み解く」が 26.6%、「大意をつかんで読む」が 22.7%、「新聞・雑誌の記事が読める」が 4.5%、「詩や小説などの文学作品を楽しむ」が 3.2%、「日本語に訳す」が 2.6%であった。

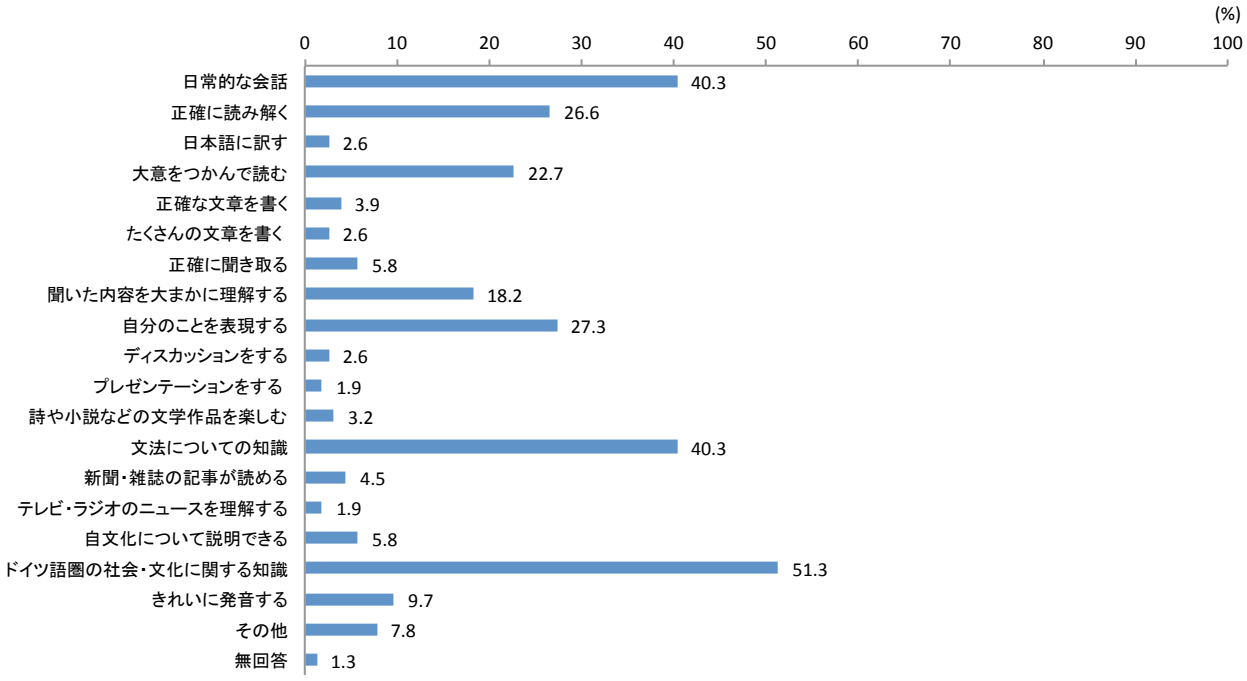
聞き取りに関する選択肢を見てみると、「聞いた内容を大まかに理解する」が 18.2%、「正確に聞き取る」が 5.8%、「テレビ・ラジオのニュースを理解する」が 1.9%であった。

書く能力に関する選択肢では、「正確な文章を書く」が 3.9%、「たくさんの文章を書く」が 2.6%であった。

話す力に関しては、9.7%の教員が「きれいに発音する」ことを重視している。

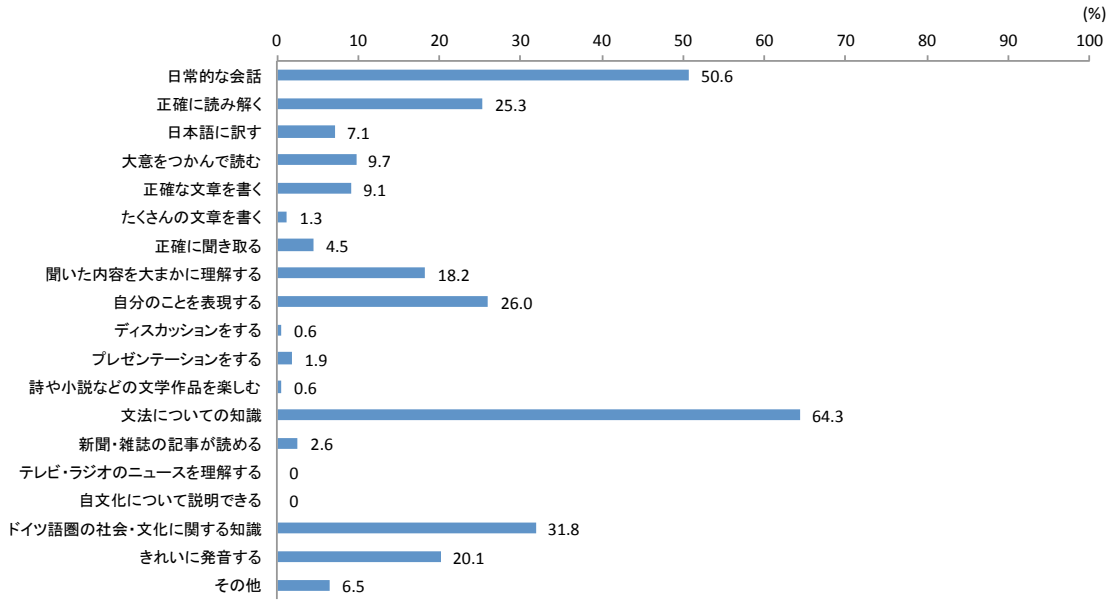
そのほか、「自分のことを表現する」が 27.3%、「自文化について説明できる」が 5.8%、「ディスカッションをする」が 2.6%、「プレゼンテーションをする」が 1.9%となっている。（図表Ⅰ-30）

＜図表Ⅰ-30＞日本のドイツ語教育において重要だと思う学習内容　n=154



なお、問 30 と同じ選択肢を挙げていた問 19 の回答結果を以下に再掲する。これにより、「日本のドイツ語教育において重要だと思う学習内容」と「調査対象クラスの授業で特に重点を置いていること」とを比較することができる。参考とされたい。

＜図表Ⅰ - 19＞調査対象クラスの授業で特に重点を置いていること n=154

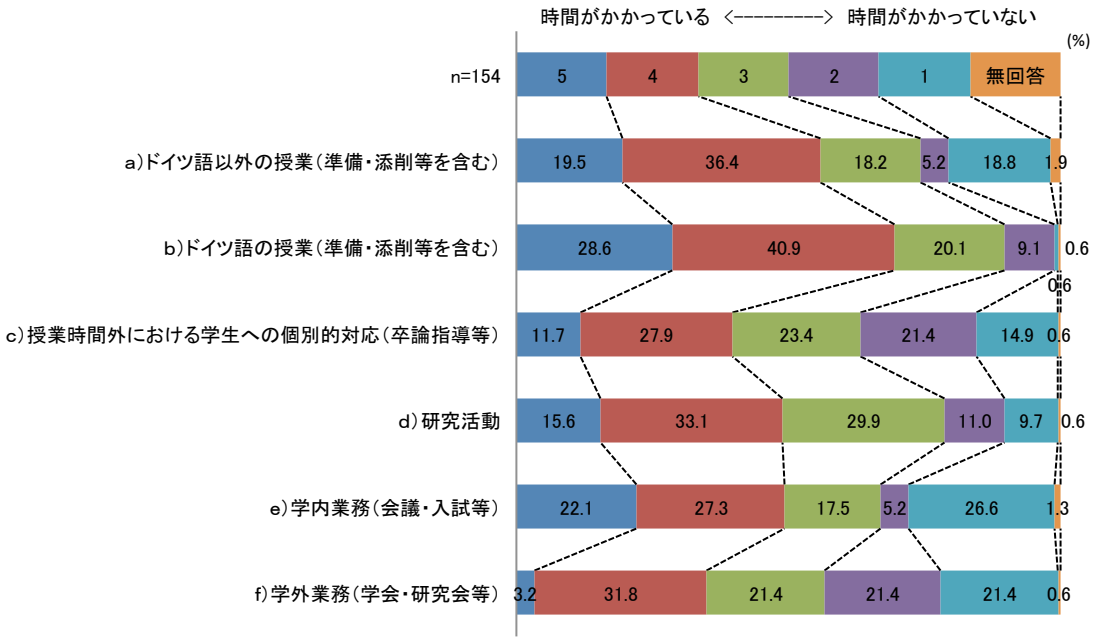


問 31　あなたの日常の業務において、どのような仕事に時間がかかっていますか。それぞれについて、５（時間がかかっている）～１（時間がかかっていない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

日常の業務でどのような仕事に時間がかかっているかを、「ドイツ語以外の授業（準備・添削等を含む）」「ドイツ語の授業（準備・添削等を含む）」「授業時間外における学生への個別的対応（卒論指導等）」「研究活動」「学内業務（会議・入試等）」「学外業務（学会・研究会等）」の 6 項目について、「５（時間がかかっている）～１（時間がかかっていない）」の 5 件法でたずねた。

各項目で「5」「4」と回答した人数の割合を合計すると、「ドイツ語の授業（準備・添削等を含む）」（平均値 3.88）が 69.5%ともっとも高く、「学外業務（学会・研究会等）」（平均値 2.74）が 35%ともっとも低かった。（図表Ⅰ-31a, Ⅰ-31b）

＜図表Ⅰ-31a＞時間がかかる日常の業務



＜図表Ⅰ-31b＞時間がかかる日常の業務：平均値

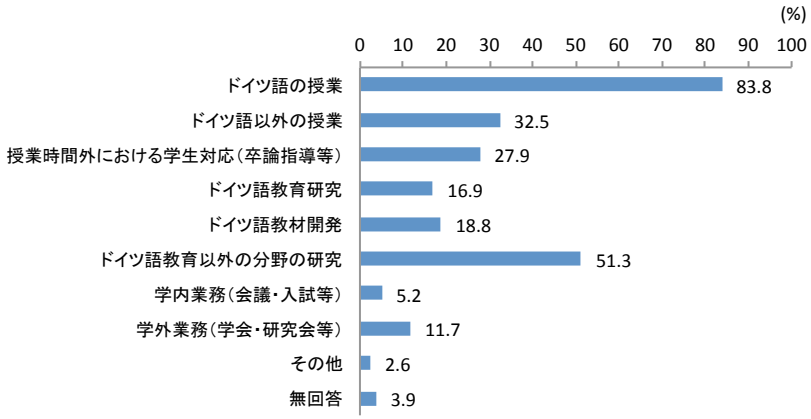
	平均値	標準偏差
a) ドイツ語以外の授業(準備・添削等を含む)	3.35	1.37
b) ドイツ語の授業(準備・添削等を含む)	3.88	0.95
c) 授業時間外における学生への個別的対応(卒論指導等)	3.01	1.27
d) 研究活動	3.34	1.16
e) 学内業務(会議・入試等)	3.12	1.52
f) 学外業務(学会・研究会等)	2.74	1.21

問 32　あなたの日常の業務において、どのような活動にやりがいを感じますか。特にやりがいを感じるものを、最大 3 つまで選び、該当する番号を○で囲んでください。（複数回答可。 3 つまで○）

ここでは個々の教員が日常的に行っている業務のうち、どのような活動にやりがいを見出しているかを8つの選択肢を提示してたずねた。3つまでの複数回答を可としている。

もっとも多かったのは「ドイツ語の授業」（83.8%）であった。続いて、「ドイツ語教育以外の分野の研究」（51.3%）、「ドイツ語以外の授業」（32.5%）、「授業時間外における学生対応（卒論指導等）」（27.9%）、そのほか、「ドイツ語教材開発」（18.8%）、「ドイツ語教育研究」（16.9%）が挙げられている。（図表Ⅰ-32）

＜図表Ⅰ-32＞日常の業務においてやりがいを感じる活動　n=154

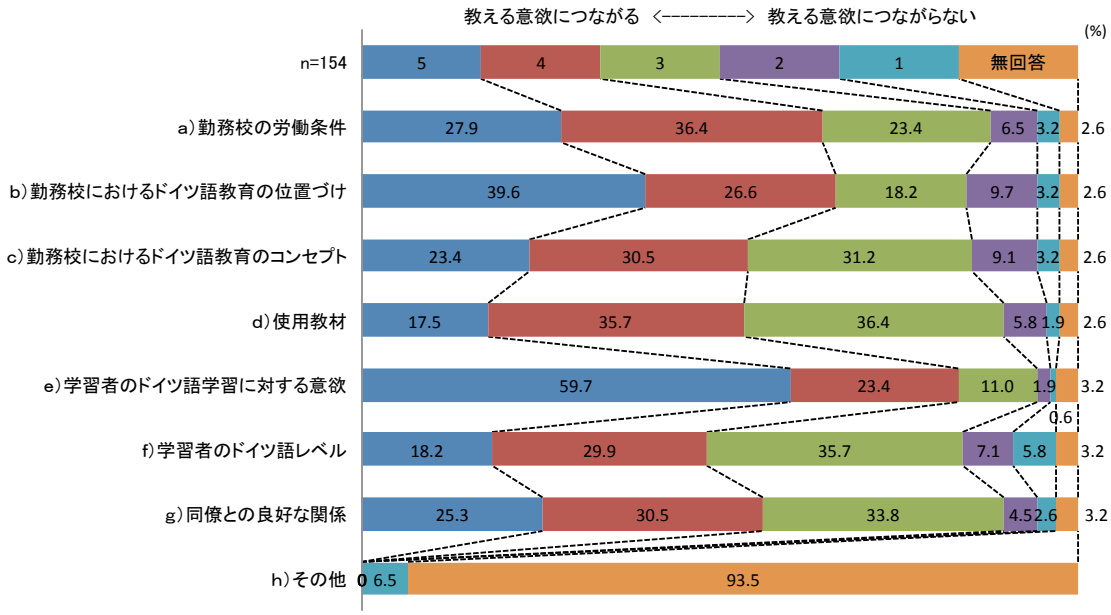


問 33　ドイツ語教員として働くにあたり、どのような事柄があなたにとって、教える意欲につながりますか。それぞれについて、５（教える意欲につながる）～１（教える意欲にはつながらない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

ドイツ語教員としてどのような事柄が教える意欲につながるかを、「勤務校の労働条件」「勤務校におけるドイツ語教育の位置づけ」「勤務校におけるドイツ語教育のコンセプト」「使用教材」「学習者のドイツ語学習に対する意欲」「学習者のドイツ語レベル」「同僚との良好な関係」の 7 項目について、「５（教える意欲につながる）～１（教える意欲にはつながらない)」の 5 件法でたずねた。

各項目で「5」「4」と回答した人数の割合を合計したところ、「学習者のドイツ語学習に対する意欲」（83.1%, 平均値 4.45)、「勤務校におけるドイツ語教育の位置づけ」（66.2%, 平均値 3.91)、「勤務校の労働条件」（64.3%, 平均値 3.82）の 3 項目が 60%を超える値を示した。（図表Ⅰ-33a, Ⅰ-33b）

＜図表Ⅰ-33a＞教える意欲につながる事柄



＜図表Ⅰ-33b＞教える意欲につながる事柄：平均値

	平均値	標準偏差
a) 勤務校の労働条件	3.82	1.04
b) 勤務校におけるドイツ語教育の位置づけ	3.91	1.14
c) 勤務校におけるドイツ語教育のコンセプト	3.63	1.06
d) 使用教材	3.62	0.91
e) 学習者のドイツ語学習に対する意欲	4.45	0.82
f) 学習者のドイツ語レベル	3.48	1.07
g) 同僚との良好な関係	3.74	0.99

Ⅱ　調査結果

(2) 学習者編

Ⅱ　調査結果　（2）学習者編

問１　あなたは次のどれに該当しますか。（１つに○）

回答者の内訳は、大学生（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻を除く）が 3,334 名（84.5%）、独語独文学系・ドイツ学系の大学生 109 名（2.8%）、短期大学生 105 名（2.7%）、高等専門学校生 219 名（5.5%）、高校生 173 名（4.3%）であった。（図表Ⅱ-1）

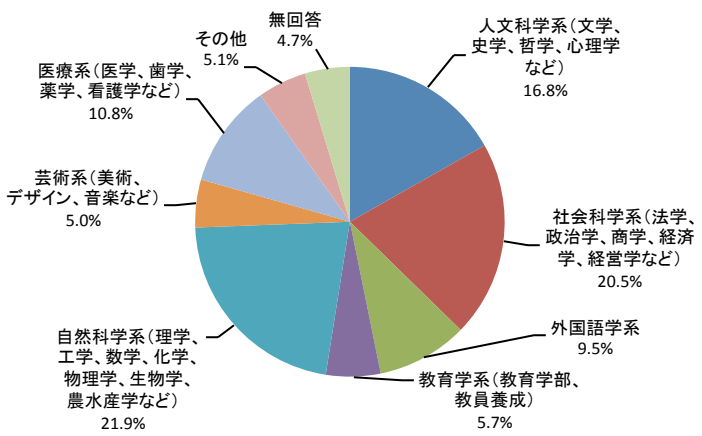
＜図表Ⅱ-1＞該当する教育機関の種別

調査数	大学生	大学生（独語独文学系・ドイツ学系）	短期大学生	高等専門学校生	高校生	無回答
3,947	3,334	109	105	219	173	7
100.0%	84.5%	2.8%	2.7%	5.5%	4.3%	0.2%

（大学生・短期大学生および高等専門学校生のみお答えください。）

問２　あなたの学部（専攻）は何ですか。（１つに○）

＜図表Ⅱ-2＞学部（専攻）の系統　n=3,947



回答者が属する学部（専攻）についてたずねた。「自然科学系（理学、工学、数学、化学、物理学、生物学、農水産学など）」（21.9%）と「社会科学系（法学、政治学、商学、経済学、経営学など）」（20.5%）が多く、次いで「人文科学系（文学、史学、哲学、心理学など）」が 16.8%と続いている。（図表Ⅱ-2）

【全ての方におたずねします。】

問３　あなたの年次をお知らせください。（１つに○）

回答者の学年についてたずねた。選択肢に「5 年次以上」とあるのは、高等専門学校に 5 年次があるためである。

大学生（独語独文学系・ドイツ学系を除く）、独語独文学系・ドイツ学系の大学生の回答者では、1 年次生がそれぞれ 69.0%、52.3%と過半数を占めた。一方、短期大学生は、1 年次生が 40.0%、2 年次生が 60.0%であった。高等専門学校生では 4 年次生が 97.7%と圧倒的多数を占めているが、これは、高等専門学校では 4 年次からドイツ語の授業が開講されている学校がほとんどであるためである。高校生では、1 年次生が 34.1%、2 年次生が 65.9%、3 年次生の回答はなかった。（図表Ⅱ-3）

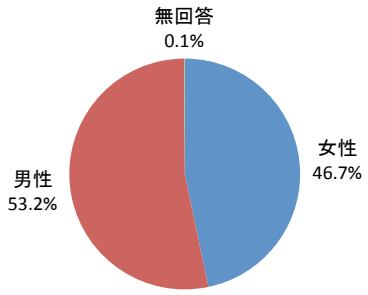
＜図表Ⅱ-3＞年次

	調査数	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	5年次以上	無回答
大学生	3,334	2,300	822	156	46	9	1
	100.0%	69.0%	24.6%	4.7%	1.4%	0.3%	-
大学生（独語独文学系・ドイツ学系）	109	57	36	9	6	1	0
	100.0%	52.3%	33.0%	8.3%	5.5%	0.9%	-
短期大学生	105	42	63	0	0	0	0
	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
高等専門学校生	219	4	1	0	214	0	0
	100.0%	1.8%	0.5%	0.0%	97.7%	0.0%	-
高等学校生	173	59	114	0	0	0	0
	100.0%	34.1%	65.9%	0.0%	0.0%	0.0%	-

問４　あなたの性別をお知らせください。（１つに○）

回答者の性別をたずねたところ、男性が 53.2%、女性が 46.7%であった。（図表Ⅱ-4）

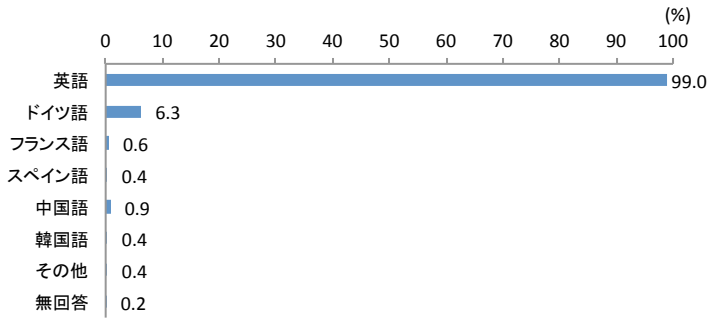
＜図表Ⅱ-4＞性別　n=3,947



問５　高等学校で学習した（学習している）外国語は何ですか。（高等専門学校生の場合には、１～３年次で学習した（学習している）外国語をお答えください。）（複数回答可）

回答者が高等学校で学習した（学習している）外国語についてたずねた。英語が 99.0%と圧倒的に多く、ドイツ語が 6.3%、次いで中国語が 0.9%、フランス語が 0.6%であった。（図表Ⅱ-5）

＜図表Ⅱ-5＞高等学校で学習した（学習している）外国語
n=3,947

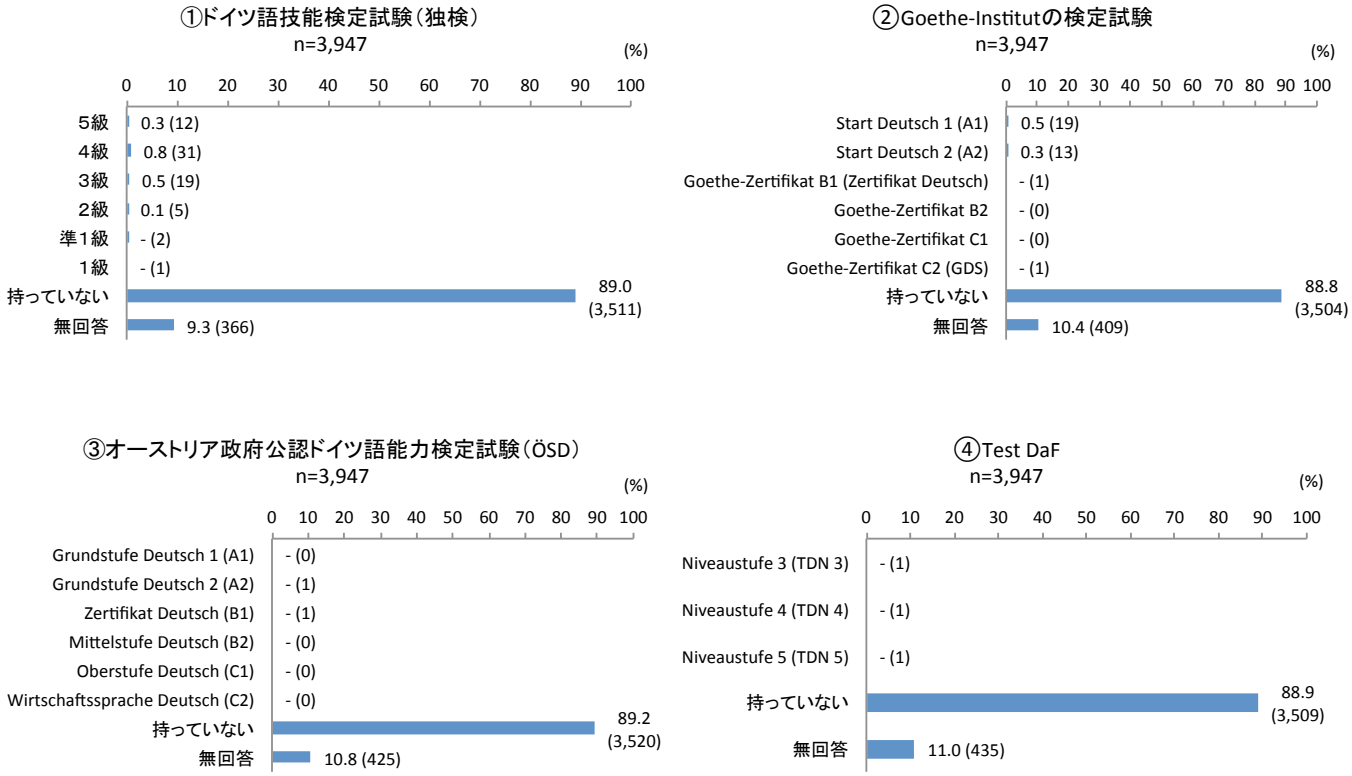


問６　ドイツ語に関する資格・検定試験のうち、持っているものに○をつけてください。（１つずつ○）

回答者が有している「ドイツ語に関する資格・検定試験」についてたずねた。「ドイツ語技能検定試験（独検）」、「Goethe-Institut の検定試験」など、いずれの検定試験においても９割近くの回答者が「持っていない」と答えた。

本調査は６月～７月にかけて実施されたため、調査期間中、ドイツ語技能検定試験（独検）の合格発表がまだ行われていなかったことも、このような結果となった理由の一つであると考えられる。（図表Ⅱ-6 ①～④）

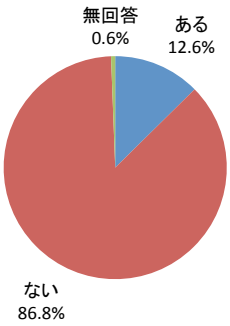
＜図表Ⅱ-6＞ドイツ語に関する資格・検定試験



問７　これまでに英語とドイツ語以外の外国語を学習したことがありますか。（１つに○）

英語とドイツ語以外の外国語の学習経験についてたずねたところ、「ない」が 86.8%、「ある」が 12.6%であった。（図表Ⅱ-7）

＜図表Ⅱ-7＞英語とドイツ語以外の外国語学習経験の有無
n=3,947



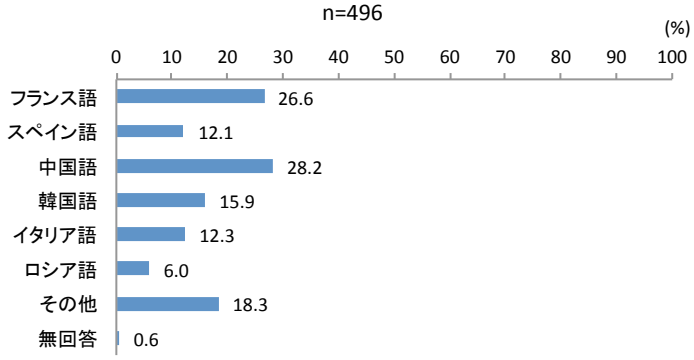
（問７で「１　ある」と回答した方におたずねします。）
問７-1　どの外国語を学習しましたか。（１つに○）

問 7 で英語とドイツ語以外の外国語の学習経験が「ある」と答えた回答者に対し、どの外国語を学習したかをたずねた。なお、質問文には「どの外国語を学習しましたか。（１つに○）」とあるが、調査実施時に「どの外国語を学習しましたか。**（複数回答可）**」と訂正した。

その結果、英語とドイツ語以外で、学習経験のある外国語としてもっとも多かったのは、中国語（28.2%）、フランス語（26.6%）、次いで韓国語（15.9%）であった。

また、「その他」の回答（18.3%，159 件）として、ラテン語（29 件）、アラビア語（19 件）、ギリシャ語（12 件）などが挙げられていた。（図表Ⅱ-7-1）

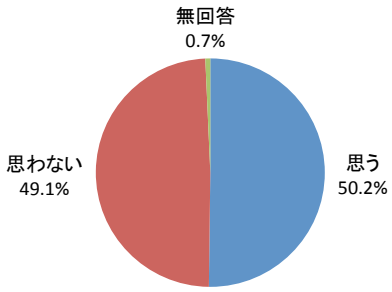
＜図表Ⅱ-7-1＞学習経験のある外国語
n=496



【全ての方におたずねします。】
問８　これから新たに英語とドイツ語以外の言語を学びたいと思いますか。（１つに○）

これから新たに英語とドイツ語以外の言語を学びたいと思うかたずねたところ、「思う」が 50.2%、「思わない」が 49.1%であった。（図表Ⅱ-8）

＜図表Ⅱ-8＞「新たに英語とドイツ語以外の言語を学びたいと思う」 n=3,947

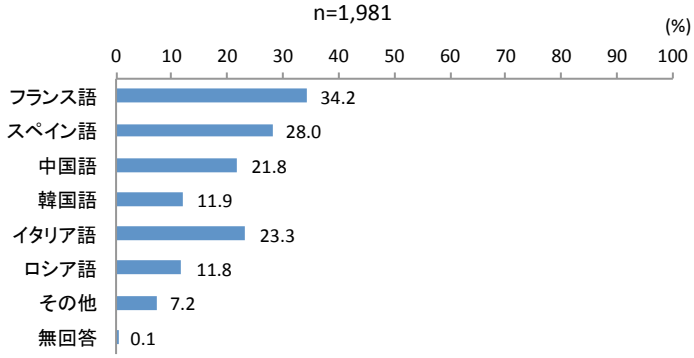


（問８で「１　思う」と回答した方におたずねします。）
問８-1　どの外国語を学びたいと思いますか。（１つに○）

問 8 でこれから新たに英語とドイツ語以外の言語を学びたいと「思う」と答えた回答者に対して、どの外国語を学びたいと思うかをたずねた。なお、質問文には「どの外国語を学びたいと思いますか。（１つに○）」とあるが、調査実施時に「どの外国語を学びたいと思いますか。（**複数回答可**）」と訂正した。

その結果、フランス語が 34.2%ともっとも多く、次いでスペイン語が 28.0%、イタリア語が 23.3%、中国語が 21.8%であった。（図表Ⅱ-8-1）

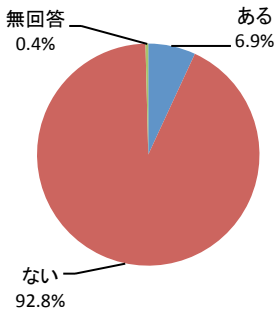
＜図表Ⅱ-8-1＞これから学んでみたいと思う外国語



【全ての方におたずねします。】
問９　あなたは、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス等）に滞在したことがありますか。（１つに○）

ドイツ語圏滞在経験の有無についてたずねたところ、「ない」という回答が大多数を占めた（92.8%）。（図表Ⅱ-9）

＜図表Ⅱ-9＞ドイツ語圏滞在経験の有無
n=3,947

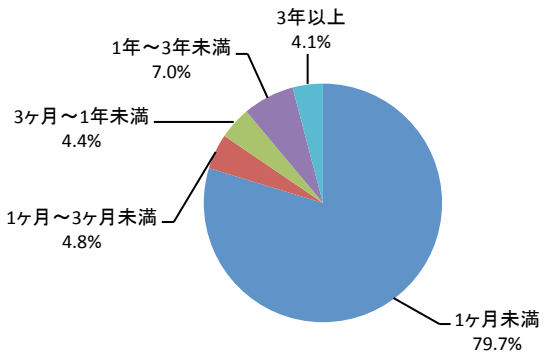


（問９-1～問９-3 は、問９で「１　ある」と回答した方におたずねします。）
問９-1　その期間はどのくらいでしたか。（複数回ある場合には、滞在期間が一番長かったものについてご回答ください。）

問 9 でドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス等）に滞在したことが「ある」と答えた回答者に対して、その期間についてたずねた。

結果は、「1 ヶ月未満」が 79.7%と多数を占め、次いで、「1 年～3 年未満」（7.0%）と続いた。（図表Ⅱ-9-1）

＜図表Ⅱ-9-1＞滞在期間（ドイツ語圏） n=271

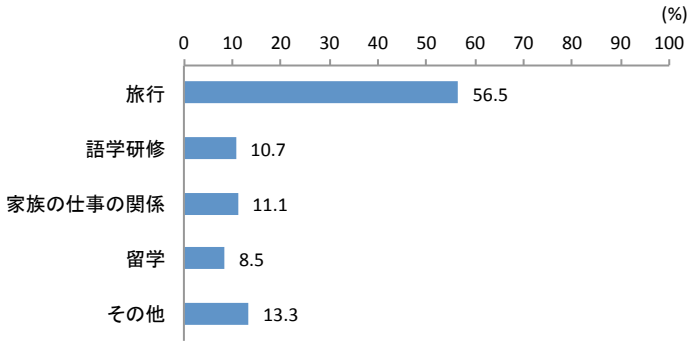


問９-2　その目的は何でしたか。（１つに○）

問 9 でドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス等）に滞在したことが「ある」と答えた回答者に対して、滞在目的をたずねた。

その結果、「旅行」が 56.5%とおよそ半数を占め、次いで、「家族の仕事の関係」（11.1%）、「語学研修」（10.7%）と続いた。「その他」の回答が 13.3%（37 件）あったが、うち 10 件が「音楽の演奏会・研修」、8 件が「スポーツ大会・交流・遠征」であった。（図表Ⅱ-9-2）

＜図表Ⅱ-9-2＞滞在目的（ドイツ語圏） n=271

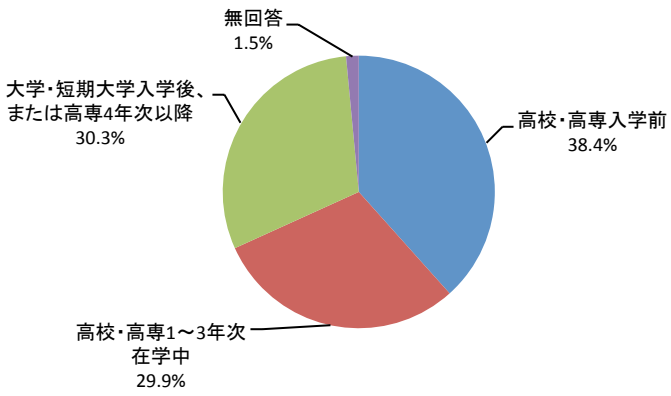


問９-3　その時期はいつでしたか。（１つに○）

問 9 でドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス等）に滞在したことが「ある」と答えた回答者に対して、滞在時期についてたずねた。

「高校・高専入学前」が 38.4%、「大学・短期大学入学後、または高専 4 年次以降」が 30.3%、「高校・高専 1～3 年次在学中」が 29.9%と、回答が分かれる結果となった。（図表Ⅱ-9-3）

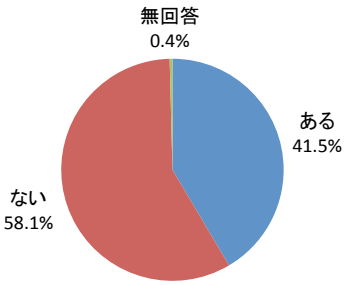
＜図表Ⅱ-9-3＞滞在時期（ドイツ語圏） n=271



【全ての方におたずねします。】
問10　あなたは、**ドイツ語圏以外の海外への渡航経験**がありますか。（１つに○）

ドイツ語圏以外の海外への渡航経験の有無をたずねたところ、「ある」と回答したのは約４割（41.5%）、「ない」と回答したのは約６割（58.1%）であった。（図表Ⅱ-10）

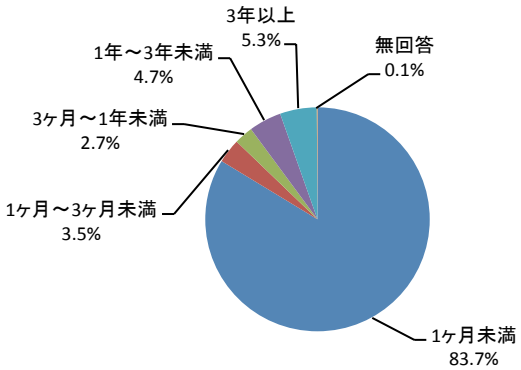
＜図表Ⅱ-10＞ドイツ語圏以外への海外渡航経験の有無
n=3,947



（問 10-1～問 10-3 は、問 10 で「１　ある」と回答した方におたずねします。）
問 10-1　その期間はどのくらいでしたか。（複数回ある場合には、滞在期間が一番長かったものについてご回答ください。）

ドイツ語圏以外の海外への渡航経験が「ある」と回答した者に対し、その期間をたずねたところ、約８割（83.7%）が「1ヶ月未満」と回答した。（図表Ⅱ-10-1）

＜図表Ⅱ-10-1＞滞在期間（ドイツ語圏以外）
n=1,639

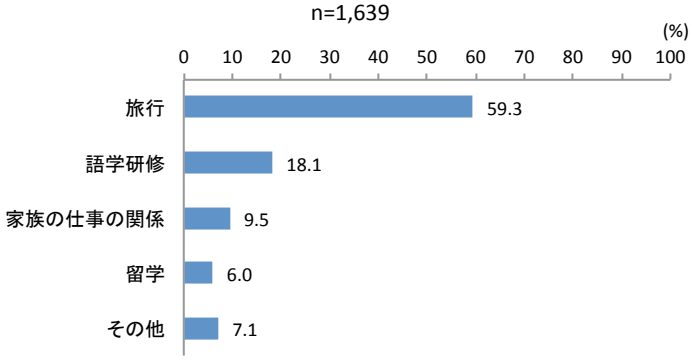


問 10-2　その目的は何でしたか。（１つに○）

ドイツ語圏以外の海外への渡航経験が「ある」と回答した者に対し、その目的をたずねたところ、「旅行」と答えた者が約 6 割（59.3%）ともっとも多く、次いで「語学研修」（18.1%）、「家族の仕事の関係」（9.5%）、「留学」（6.0%）との回答が得られた。

なお、「その他」（7.1%）の回答として、「修学旅行」（24 件）などが挙げられていた。（図表Ⅱ-10-2）

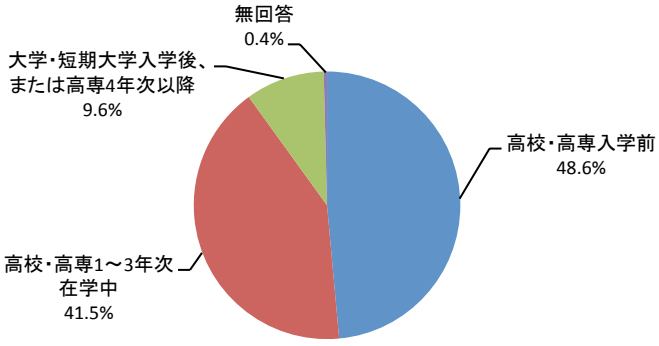
＜図表Ⅱ-10-2＞滞在目的（ドイツ語圏以外）



問 10-3　その時期はいつでしたか。（１つに○）

ドイツ語圏以外の海外への渡航経験が「ある」と回答した者に対し、その時期をたずねたところ、「高校・高専入学前」と回答した者が約 5 割（48.6%）、「高校・高専 1～3 年次在学中」が約 4 割（41.5%）であった。「大学・短期大学入学後、または高専 4 年次以降」と回答した者は約 1 割（9.6%）にとどまった。（図表Ⅱ-10-3）

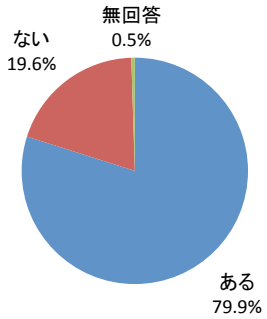
＜図表Ⅱ-10-3＞滞在時期（ドイツ語圏以外）



【全ての方におたずねします。】
問 11　あなたは、ドイツ語圏の社会や文化に興味がありますか。（１つに○）

ドイツ語圏の社会や文化に対する興味の有無についてたずねたところ、「ある」と回答した者は約 8 割（79.9.%）、「ない」と回答した者は約 2 割（19.6%）であった。（図表Ⅱ-11）

＜図表Ⅱ-11＞ドイツ語圏の社会や文化に対する興味の有無
n=3,947

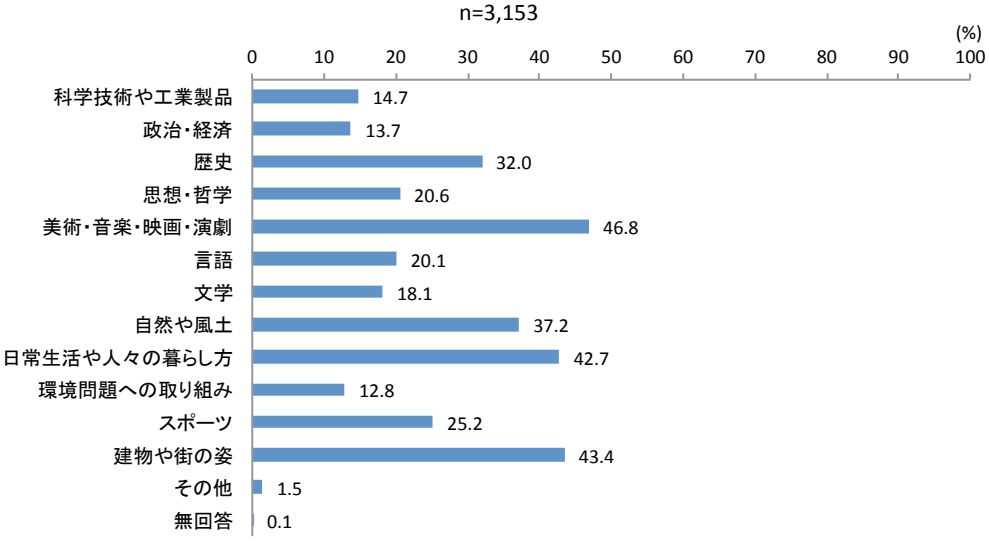


（問 11 で、「１　ある」と回答した方におたずねします。）
問 11-１　どのような事柄に関心を持っていますか。（複数回答可）

ドイツ語圏の社会や文化に興味が「ある」と回答した者に対し、具体的にどのような事柄に関心を持っているかをたずねた。

その結果、4 割を超える回答者が「美術・音楽・映画・演劇」（46.8%）、「建物や街の姿」（43.4%）、「日常生活や人々の暮らし方」（42.7%）に対して、3 割を超える回答者が「自然や風土」（37.2%）、「歴史」（32.0.%）に対して関心を持っていることがわかった。（図表Ⅱ-11-1）

＜図表Ⅱ-11-1＞ドイツ語圏の社会や文化について関心を持っている事柄
n=3,153

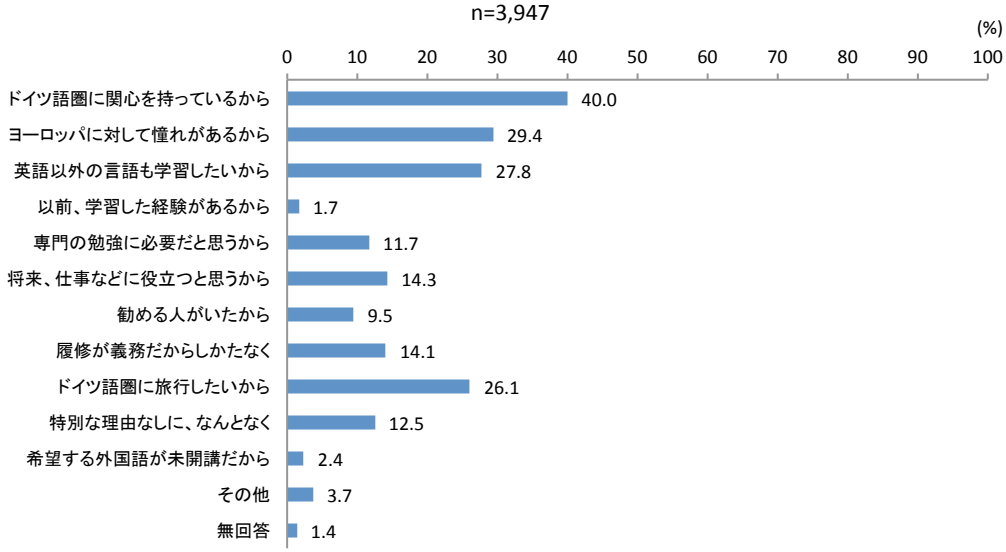


【全ての方におたずねします。】
問 12　あなたがドイツ語を履修している理由は何ですか。（複数回答可）

ドイツ語を履修している理由をたずねたところ、「ドイツ語圏に関心を持っているから」（40.0%）がもっとも多く、次いで「ヨーロッパに対して憧れがあるから」（29.4%）、「英語以外の言語も学習したいから」（27.8%）、「ドイツ語圏に旅行したいから」（26.1%）との回答が得られた。

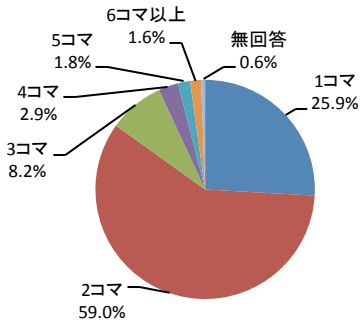
また、「その他」（3.7%）には、「ドイツ語自体に興味があるから」（26 件）、「ドイツ語圏に友人・知人がいるから」（16 件）という回答があった。（図表Ⅱ-12）

＜図表Ⅱ-12＞ドイツ語を履修している理由
n=3,947



問 13　あなたは、ドイツ語の授業を週に何コマ履修していますか。（1 つに○）

＜図表Ⅱ-13＞ドイツ語の授業の履修コマ数（週あたり）
n=3,947



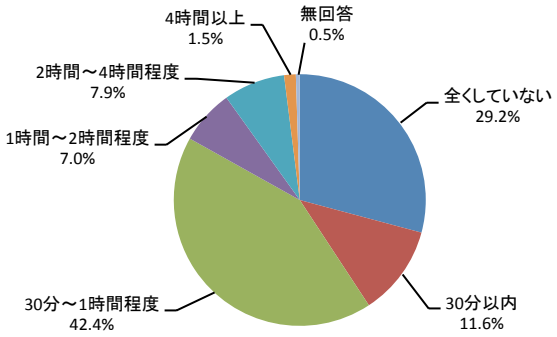
ドイツ語の授業を週に何コマ履修しているかたずねたところ、「2 コマ」という回答が 59.0%ともっとも多く、次いで「1 コマ」（25.9%）、「3 コマ」（8.2%）との回答が得られた。（図表Ⅱ-13）

問 14　あなたは、授業以外でドイツ語を 1 週間あたりどの程度勉強していますか。（1 つに○）

授業以外での週あたりのドイツ語の勉強時間をたずねたところ、「30 分～1 時間程度」（42.4%）との回答がもっとも多く、次いで「30 分以内」（11.6%）、「2 時間～4 時間」（7.9%）、「1 時間～2 時間」（7.0%）、「4 時間以上」（1.5%）との回答が得られた。

また、約 3 割の回答者が「全くしていない」（29.2%）と回答した。（図表Ⅱ-14）

＜図表Ⅱ-14＞授業以外でのドイツ語の勉強時間（週あたり）
n=3,947

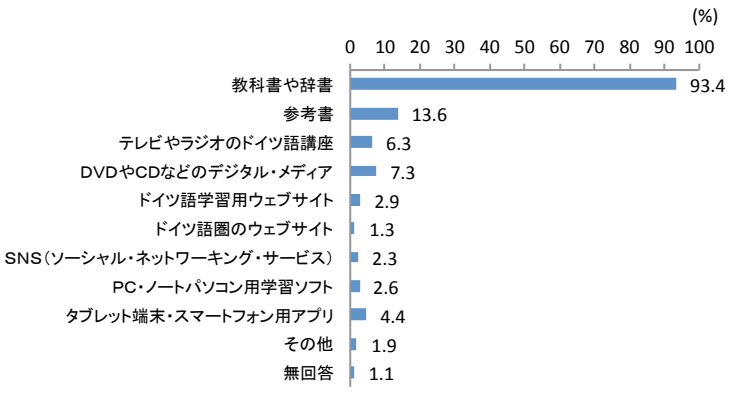


（問 14 で「２」～「６」と回答した方におたずねします。）
問 14-1　あなたは、勉強ではどのような手段を使っていますか。（複数回答可）

授業以外でドイツ語を勉強していると回答した者に対し、どのような手段を使って勉強しているかをたずねた。その結果、「教科書や辞書」と回答したケースがもっとも多く（93.4%）、そのほかには「参考書」（13.6%）、「DVD や CD などのデジタル・メディア」（7.3%）、「テレビやラジオのドイツ語講座」（6.3%）との回答が得られた。

また、「その他」（1.9%）の回答としては、「授業で使用したプリント・ノート」（26 件）などがあった。（図表Ⅱ-14-1）

＜図表Ⅱ-14-1＞勉強で使用する手段　n=2,777



【全ての方におたずねします。】

問15　ドイツ語の**学習目標**についておたずねします。ドイツ語では、最終的にどのような能力を身につけたいと思いますか。以下の中から**最大３つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

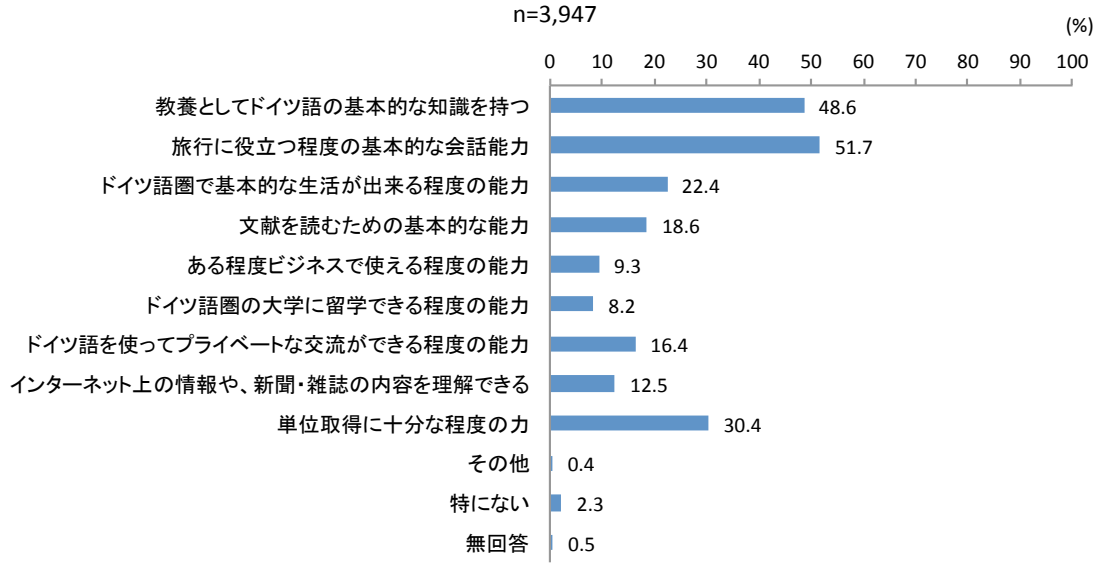
この設問では、1999 年発行のドイツ語教育部会による調査報告（※）との比較を可能にするため、同調査と同じ項目をいくつか選択肢として挙げた。同報告にある学習者調査（1997 年実施）中の「ドイツ語の学習目標として、どんな能力を獲得したいと思いますか？（複数回答可）」という設問では、約半数の学習者が「旅行に役立つ程度の能力」（大学生 45.2%，高専生 45.6%，高校生 52.4%）、「教養としてドイツ語の基本的な知識を持つ」（大学生 48.1%，高専生 42.9%，高校生 54.9%）と回答し、この 2 つが多くの学習者が選択する項目となっていた。

今回の調査でもこの傾向は変わらず、約半数の学習者が「旅行に役立つ程度の基本的な会話能力」（51.7%）、「教養としてドイツ語の基本的な知識を持つ」（48.6%）と回答した。

3 番目に多かったのが「単位取得に十分な程度の力」（30.4%）であり、学習者は必ずしも積極的な学習目標を意識しているわけではないという傾向も見られた。（図表Ⅱ-15）

※ 日本独文学会ドイツ語教育部会　ドイツ語教育に関する調査研究委員会（編）（1999）：『ドイツ語教育の現状と課題 ―アンケート結果から改善の道を探る― 』99-108 頁。

＜図表Ⅱ-15＞ドイツ語の学習で最終的に身につけたい能力

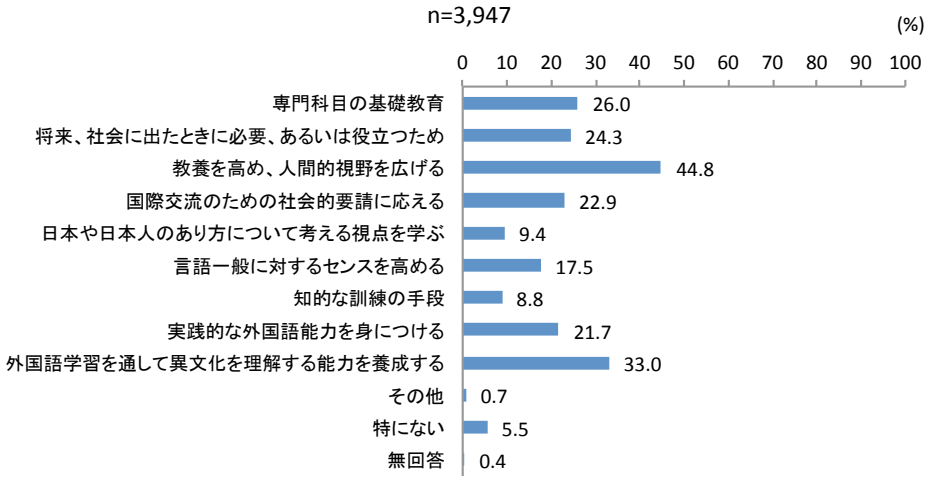


問16　ドイツ語を学ぶ**意義**についておたずねします。ドイツ語を学ぶことの意義や目的として重要なのは何だと思いますか。以下の中から**最大３つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

前問と同様、この設問も、1999年発行のドイツ語教育部会による調査報告（※）との比較を可能にするため、同調査と同じ項目をいくつか選択肢として挙げた。同報告にある学習者調査（1997年実施）中の「第２の外国語としてドイツ語を学習する意義や目的としてもっとも重要と思うものは何ですか（複数回答可）」という設問では、「教養を高め、人間的視野を広げる」（大学生39.1%，高専生21.4%，高校生37.1%）と「外国語学習を通して異文化を理解する能力を養成する」（大学生37.3%，高専生21.2%，高校生38.5%）と回答し、この2つが多くの学習者が選択する項目となっていた。

今回の調査でもこの傾向は変わらず、「教養を高め、人間的視野を広げる」がもっとも多く（44.8%）、次に多かったのが「外国語学習を通して異文化を理解する能力を養成する」（33.0%）であった。次いで、「専門科目の基礎教育」（26.0%）、「将来、社会に出たときに必要、あるいは役立つため」（24.3%）、「国際交流のための社会的要請に応える」（22.9%）、「実践的な外国語能力を身につける」（21.7%）と続いており、いずれも4～5人に1人の割合でこれらの項目を挙げている。（図表Ⅱ-16）

＜図表Ⅱ-16＞ドイツ語学習の意義や目的として重要だと思うこと

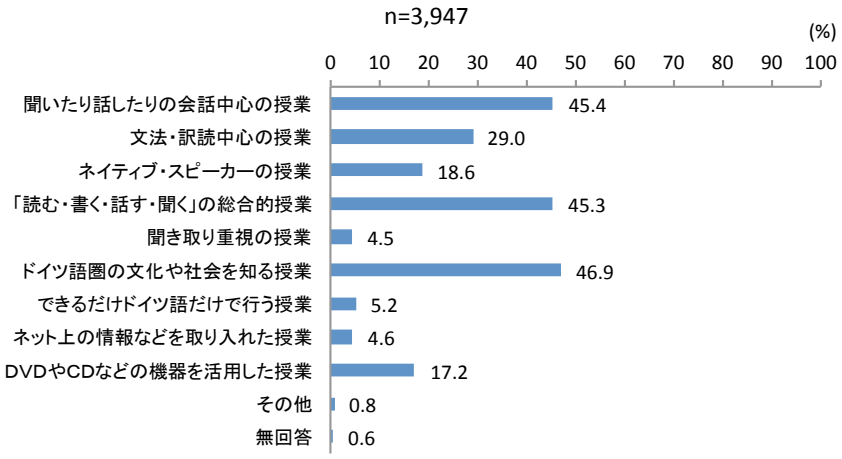


問17　あなたは、どのようなドイツ語の授業を望みますか。以下の中から**最大３つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

どのようなドイツ語の授業を希望するかたずねたところ、「ドイツ語圏の文化や社会を知る授業」（46.9%）、「聞いたり話したりの会話中心の授業」（45.4%）、「『読む・書く・話す・聞く』の総合的授業」（45.3%）の３つの項目が、いずれも約 45%の学習者によって回答として挙げられた。また、「文法・訳読中心の授業」（29.0%）を挙げた学習者は約３割であった。

前述の1997年実施の学習者調査においても、「好ましい授業形態」として、「会話中心の授業」（大学生35.7%，高専生29.9%，高校生37.1%）、「読み書き話し聞く総合的な授業」（大学生32.7%，高専生31.3%，高校生46.5%）、「ドイツ語圏の文化や社会について考える授業」（大学生26.0%，高専生14.6%，高校生21.5%）の3つが多くの学習者によって挙げられており、この点についても今回の調査では特に大きな変化は見られなかった。（図表Ⅱ-17）

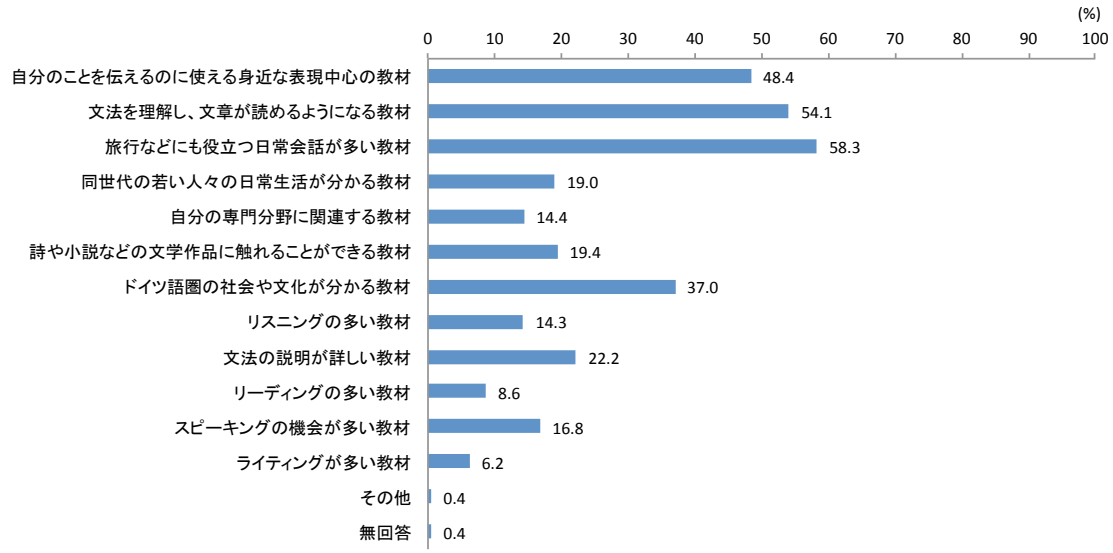
＜図表Ⅱ-17＞希望するドイツ語の授業



問18　あなたは、どのような内容の教材でドイツ語を勉強したいと思いますか。以下の中から**最大５つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。５つまで○）

問 18 では、学習者がどのような内容の教材でドイツ語を勉強したいと考えているかについて 12 の選択肢および「その他」の項目を設定のうえ質問した。その結果、「旅行などにも役立つ日常会話が多い教材」が 58.3%ともっとも多く、次いで「文法を理解し、文章が読めるようになる教材」（54.1%）、さらに「自分のことを伝えるのに使える身近な表現中心の教材」（48.4%）と続いた。（図表Ⅱ-18）

＜図表Ⅱ-18＞ドイツ語を勉強したいと思う教材　n=3,947

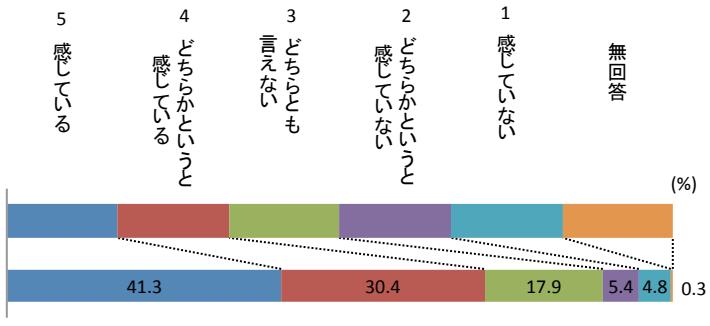


問19　現在、あなたはドイツ語の学習に興味を感じていますか。（１つに○）

問 19 では、ドイツ語の学習に対する興味の有無を問うた。

結果、ドイツ語の学習に興味を感じていると回答した者は、「5　感じている」（41.3%）および「4　どちらかというと感じている」（30.4%）をあわせて 71.7%にのぼった。反対に、ドイツ語の学習に興味を感じていないと回答した者は、「1　感じていない」（4.8%）と「2　どちらかというと感じていない」（5.4%）の両回答をあわせて 10.2%であった。（図表Ⅱ-19）

＜図表Ⅱ-19＞ドイツ語学習に対する興味　n=3,947

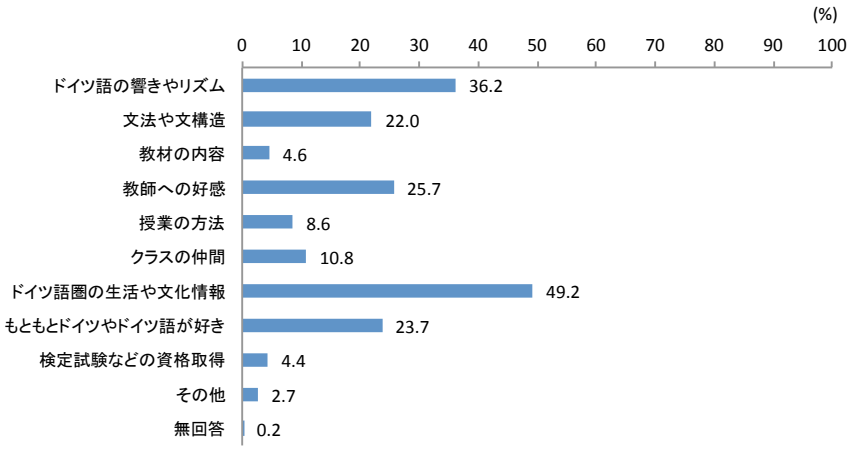


（問19で、「５」か「４」と回答した方におたずねします。）
問19-1　興味を感じるとしたらその理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

前出の問 19 で、ドイツ語の学習に興味を感じている（「5　感じている」および「4　どちらかというと感じている」）と回答した学生を対象に、その理由や原因を問うた。

結果、5 割近くの学習者が「ドイツ語圏の生活や文化情報」(49.2%)を挙げた。次に多かった回答として、「ドイツ語の響きやリズム」(36.2%)、「教師への好感」(25.7%)、「もともとドイツやドイツ語が好き」(23.7%)、「文法や文構造」(22.0%) が続いた。（図表Ⅱ-19-1）

＜図表Ⅱ-19-1＞興味を感じる理由や原因　n=2,828

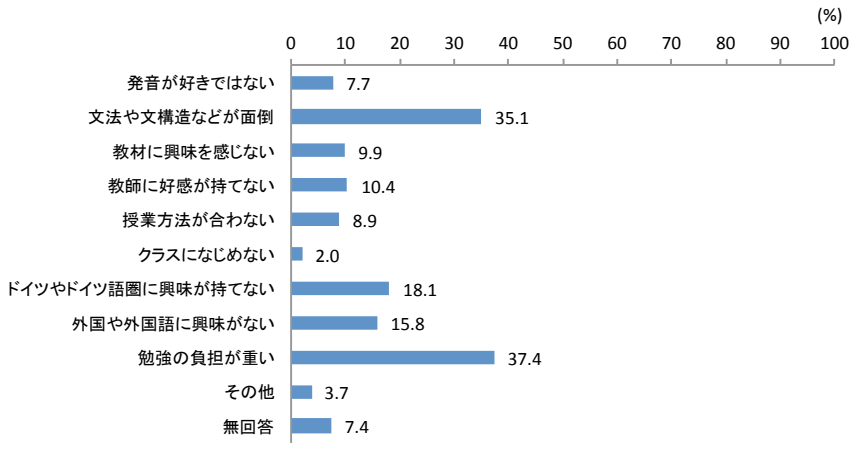


（問 19 で、「２」か「１」と回答した方におたずねします。）
問 19-2　興味を感じないとしたらその理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

前出の問 19 で、ドイツ語の学習に興味を感じない（「2　どちらかというと感じない」および「1　感じない」）と回答した学生を対象に、その理由や原因を問うた。

その結果、「勉強の負担が重い」(37.4%)、「文法や文構造などが面倒」(35.1%) との回答が 3 割を超えた。またそのほかに、「ドイツやドイツ語圏に興味が持てない」(18.1%)、「外国や外国語に興味がない」(15.8%) ことが挙げられている。（図表Ⅱ-19-2）

＜図表Ⅱ-19-2＞興味を感じない理由や原因　n=404

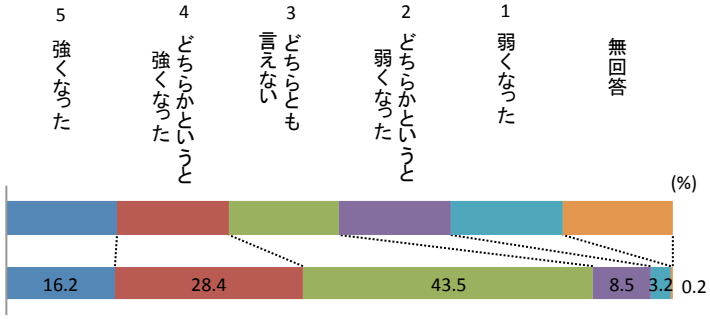


【全ての方におたずねします。】

問20　このクラスでの**学習開始時期**と比べて、あなたの**学習意欲は変化**しましたか。（1つに○）

「このクラスでの学習開始時期と比べて学習意欲が変化したか」という問いに対して、「どちらかというと強くなった」が 28.4%、「強くなった」が 16.2%となっており、両回答あわせて 4 割を超える回答者（44.6%）が、学習意欲が強くなったと答えている。一方、「どちらとも言えない」（43.5%）と回答した学習者も、ほぼ同程度の割合を占めた。また、学習意欲が弱くなったと回答したのは、「どちらかというと弱くなった」（8.5%）「弱くなった」（3.2%）をあわせて 1 割強（11.7%）であった。（図表Ⅱ-20）

＜図表Ⅱ-20＞学習開始時期と比べた学習意欲の変化



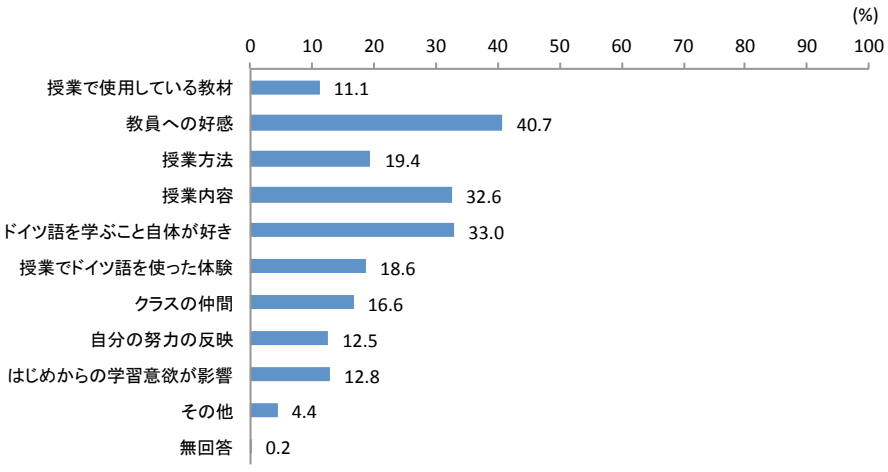
（問20で、「５」か「４」と回答した方におたずねします。）

問20-1　意欲が強くなった理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

問 20 で学習意欲が強くなった（「5 強くなった」「4　どちらかというと強くなった」）と回答した学習者（1,761 件）に対し、その理由や原因についてたずねた。

もっとも多かったのは「教員への好感」（40.7%）であった。続いて、「ドイツ語を学ぶこと自体が好き」（33.0%）、「授業内容」（32.6%）が挙げられ、さらに 2 割弱の回答者が「授業方法」（19.4%）、「授業でドイツ語を使った体験」（18.6%）を選んだ。（図表Ⅱ-20-1）

＜図表Ⅱ-20-1＞意欲が強くなった理由や原因　n=1,761

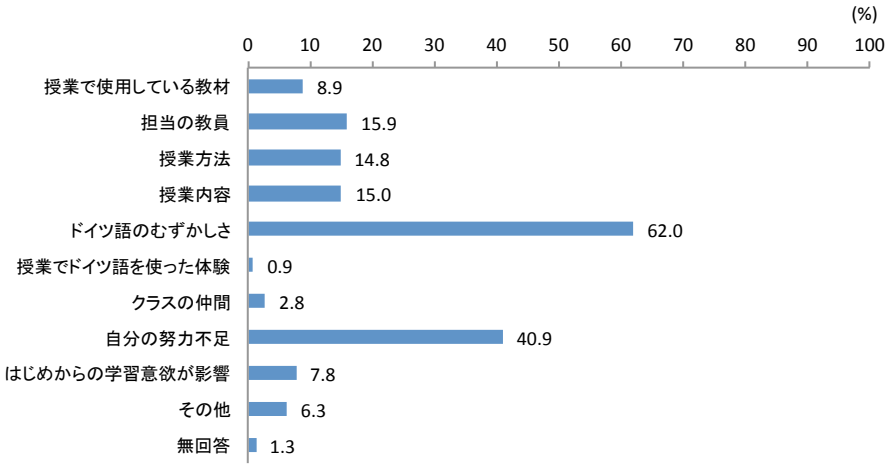


（問20で、「２」か「１」と回答した方におたずねします。）
問20-2　意欲が減退した理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

問 20 で学習意欲が弱くなった（「2　どちらかというと弱くなった」「1　弱くなった」）と回答した学習者（460 件）に対し、その理由や原因についてたずねた。

その結果、約 6 割の回答者が「ドイツ語のむずかしさ」（62.0%）を意欲が減退した理由や原因として挙げている。また、「自分の努力不足」（40.9%）と回答した学習者も 4 割程度いた。そのほかの原因として、「担当の教員」（15.9%）、「授業内容」（15.0%）、「授業方法」（14.8%）が挙げられている。（図表Ⅱ-20-2）

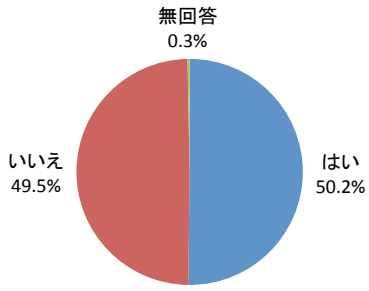
＜図表Ⅱ-20–2＞　意欲が減退した理由や原因　n=460



【全ての方におたずねします。】
問21　あなたは、現在のドイツ語クラスの履修後も、ドイツ語を学ぶつもりでいますか。（1つに○）

「現在のドイツ語クラスの履修後もドイツ語を学ぶつもりでいるか」との質問に対し、約半数の回答者が、それぞれ「はい」（50.2%）、「いいえ」（49.5%）と回答した。（図表Ⅱ-21）

＜図表Ⅱ-21＞「現在のクラスの履修後も、ドイツ語を学ぶ」
n=3,947



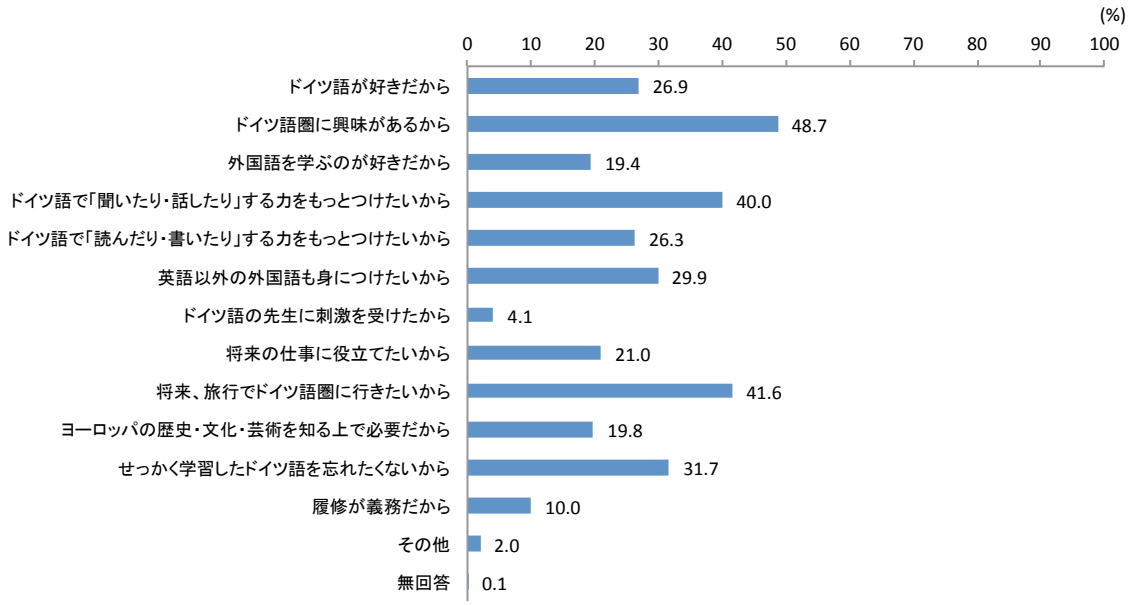
（問21で「１　はい」と回答した方におたずねします。）

問21-1　その理由は何ですか。以下の中から**最大５つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。５つまで○）

問 21（「あなたは、現在のドイツ語クラスの履修後も、ドイツ語を学ぶつもりでいますか。」）で、「はい」と回答した者（1,983 件）に対し、その理由をたずねた。

もっとも多かったのが「ドイツ語圏に興味があるから」（48.7%）であり、次いで「将来、旅行でドイツ語圏に行きたいから」（41.6%）、「ドイツ語で『聞いたり、話したり』する力をもっとつけたいから」（40.0%）、「せっかく学習したドイツ語を忘れたくないから」（31.7%）、「英語以外の外国語も身につけたいから」（29.9%）との回答が続いた。（図表Ⅱ-21-1）

＜図表Ⅱ-21-1＞ドイツ語の学習を継続する理由　n=1,983



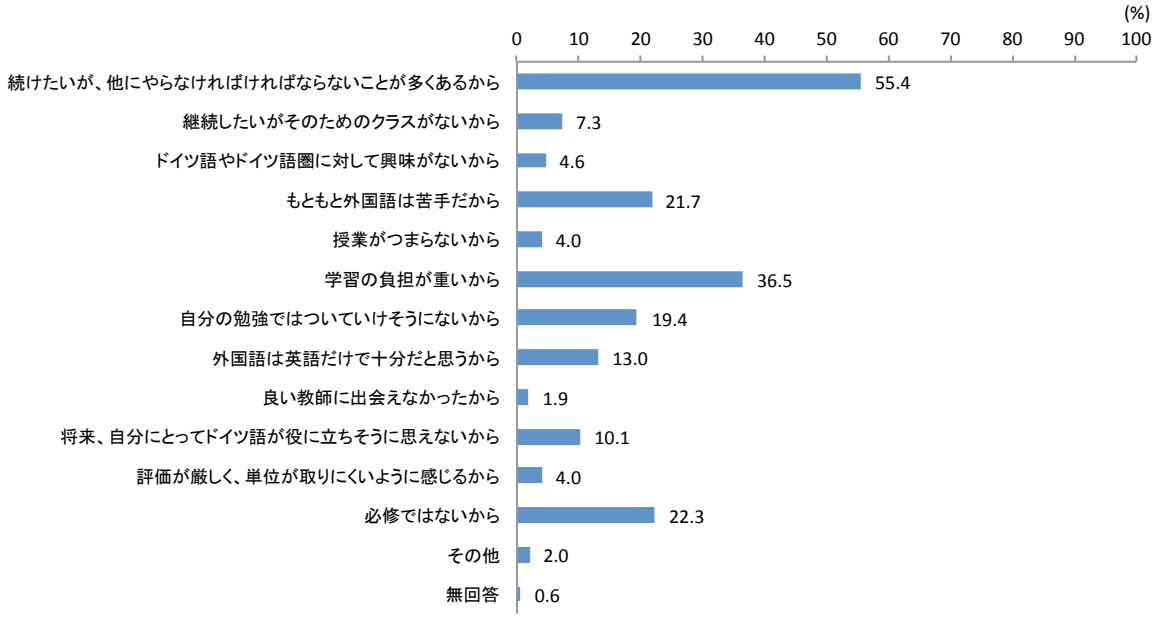
（問21で「２　いいえ」と回答した方におたずねします。）

問21-2　その理由は何ですか。以下の中から**最大５つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。５つまで○）

問 21（「あなたは、現在のドイツ語クラスの履修後も、ドイツ語を学ぶつもりでいますか。」）で、「いいえ」と回答した者（1,952 件）に対し、その理由をたずねた。

結果、もっとも多かったのが「続けたいが、他にやらなければならないことが多くあるから」（55.4%）であった。半数以上の学習者が、続けたいという意思は持っているものの、他の事情との関係であきらめざるを得ない状況に置かれていることがうかがえる。また、4 割弱の学習者が「学習の負担が重いから」（36.5%）と回答している。（図表Ⅱ-21-2）

＜図表Ⅱ-21-2＞ドイツ語の学習を継続しない理由　n=1,952

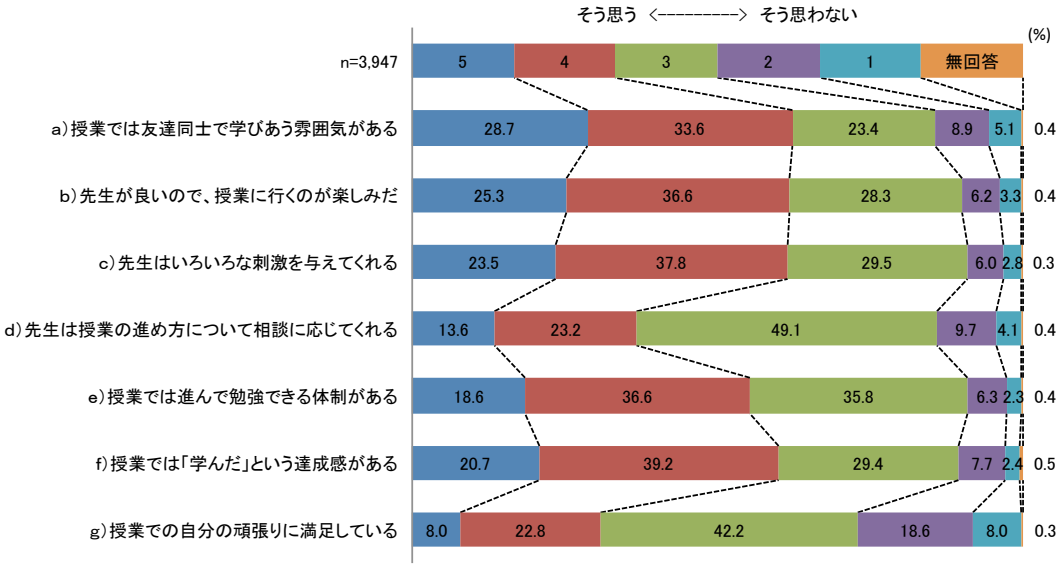


【全ての方におたずねします。】

問22　あなたは、現在のドイツ語の授業環境をどう感じますか。それぞれについて、5（そう思う）～1（そう思わない）の該当する番号を○で囲んでください。（1つずつ○）

問 22 は、ドイツ語の授業環境をどのように感じているかを、「5（そう思う）～1（そう思わない）」の 5 件法で調査したものである。「5」あるいは「4」を選んだ割合が高い項目は、「授業では友達同士で学びあう雰囲気がある」（62.3%）、「先生が良いので、授業に行くのが楽しみだ」（61.9%）、「先生はいろいろな刺激を与えてくれる」（61.1%）、「授業では『学んだ』という達成感がある」（59.9%）、「授業では進んで勉強できる体制がある」（55.2%）だった。これに対して、「5」あるいは「4」を選んだ割合が低い項目は、「授業での自分の頑張りに満足している」（30.8%）、「先生は授業の進め方について相談に応じてくれる」（36.8%）であった。学習者は総じて授業環境を肯定的に感じているが、自分の頑張りについては満足度が低い結果となった。（図表Ⅱ-22a）

＜図表Ⅱ-22a＞現在のドイツ語の授業環境に対する印象



a）～g）の 7 つの質問項目は、学習者が授業環境をどのように捉えているかを、「自己決定理論」に基づき調査したものである。自分の受けている授業が、「1．良い人間関係を促進する環境と感じるか（項目 a, b, c）」、「2．自律性を促す環境と感じるか（項目 d, e）」、「3．有能感を感じる環境と思うか（項目 f, g）」の 3 つの視点から考察することを目的とした。自己決定理論では、学習者が授業環境をこの 3 つの基本的心理的欲求を充足する場だと感じる場合には、学ぶ意欲が向上すると考えられているからである。分析の結果、「関係性」「自律性」「有能感」のいずれも平均値が 3.0 を超えていることから、学習者は授業環境をどちらかと言えば肯定的に感じているようである。ただし、学習意欲や学習成果にとってとくに重要だと思われる「有能感」は相対的に低い値を示した。（図表Ⅱ-22b）

＜図表Ⅱ-22b＞基本的心理的欲求の充足度の平均値

	平均値	標準偏差
関係性（n=3,928）	3.73	.874
自律性（n=3,931）	3.48	.848
有能感（n=3,927）	3.36	.883

性別で比較すると、女性の方がどの項目においても高い値を示した。学習環境に対する認知は、女性の方が男性よりもわずかながら高いと言える。（図表Ⅱ-22c）

＜図表Ⅱ-22c＞基本的心理的欲求の充足度の平均値：男女比較

	性別	平均値	標準偏差
関係性	女性（n=1,833）	3.83	.871
	男性（n=2,093）	3.65	.868
自律性	女性（n=1,832）	3.53	.863
	男性（n=2,097）	3.43	.832
有能感	女性（n=1,830）	3.40	.873
	男性（n=2,095）	3.33	.890

次に、学系別（大学生・短期大学生・高等専門学校生を対象）で比較すると、どの学系、どの項目においても、3.0 以上の値を示したことから、ドイツ語学習者は、どの学系であっても、授業環境をどちらかと言えば肯定的に捉えていると言えよう。

学系間の違いをみると、「関係性」については、教育学系（3.99）、外国語学系（3.97）が比較的高い値を示し、社会科学系（3.59）、自然科学系（3.59）が相対的に低い値を示した。「自律性」の値は、「関係性」より低いが、外国語学系（3.66）、芸術系（3.66）、教育学系（3.65）で相対的に高く、自然科学系（3.35）、社会科学系（3.40）で低い。「有能感」については、教育学系（3.56）、医療系（3.52）で比較的値が高く、自然科学系（3.23）、社会科学系（3.29）で低いという結果となった。

授業環境をどのように捉えているかを学系間で比較すると、今回の調査では、相対的に教育学系で値が高く、それに比べると、社会科学系、自然科学系では値が低いという傾向が示された。（図表Ⅱ-22d）

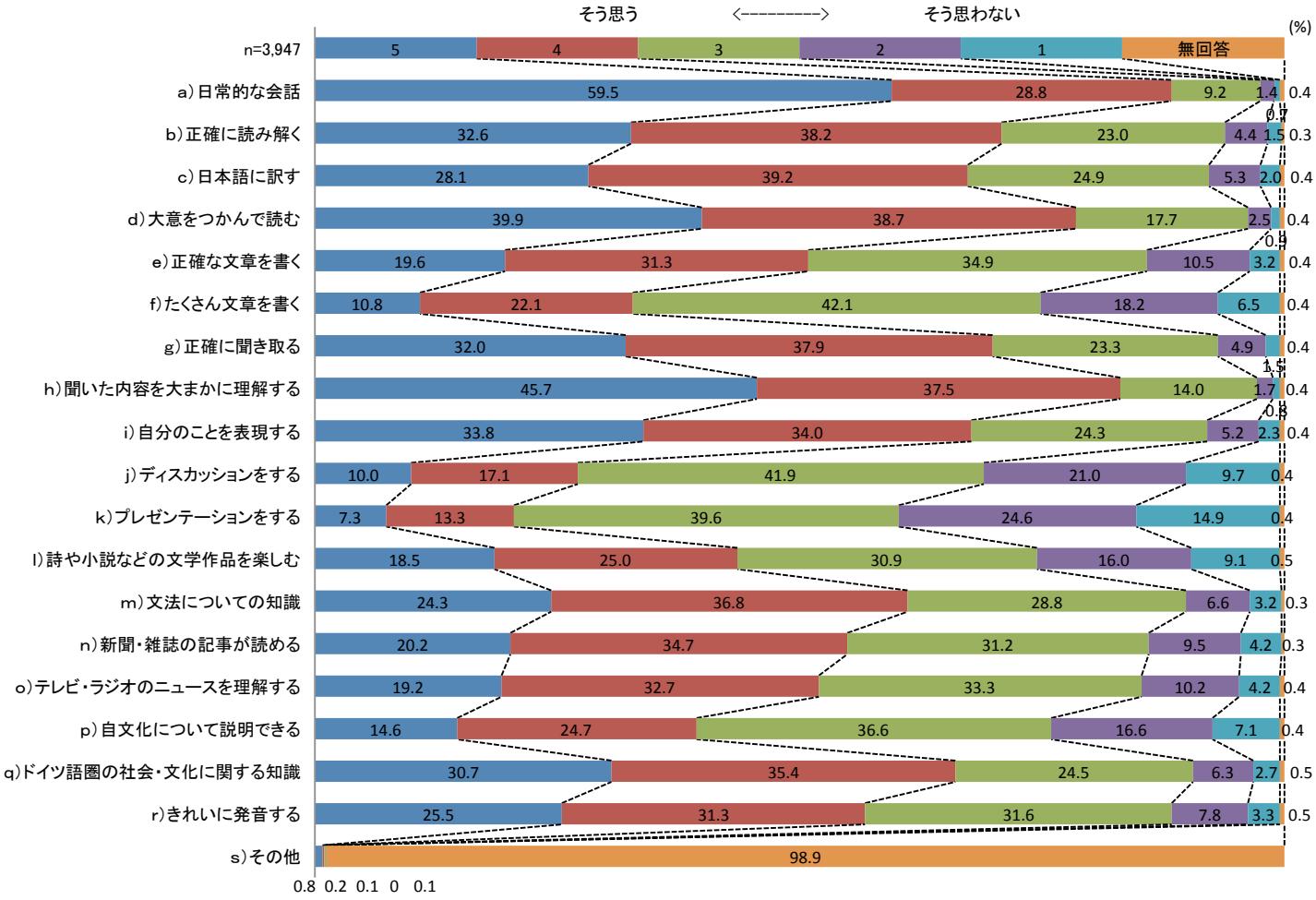
＜図表Ⅱ-22d＞基本的心理的欲求の充足度の平均値:学系別比較

		平均値	標準偏差
関係性	人文科学系（n=657）	3.84	.834
	社会科学系（n=802）	3.59	.852
	外国語学系（n=374）	3.97	.844
	教育学系（n=225）	3.99	.745
	自然科学系（n=859）	3.59	.852
	芸術系（n=197）	3.82	.887
	医療系（n=427）	3.79	.909
	その他（n=203）	3.57	.930
	合計（n=3,744）	3.73	.868
自律性	人文科学系（n=657）	3.55	.835
	社会科学系（n=807）	3.40	.823
	外国語学系（n=374）	3.66	.848
	教育学系（n=224）	3.65	.823
	自然科学系（n=858）	3.35	.787
	芸術系（n=196）	3.66	.883
	医療系（n=427）	3.53	.896
	その他（n=203）	3.31	.860
	合計（n=3,746）	3.48	.842
有能感	人文科学系（n=657）	3.41	.863
	社会科学系（n=807）	3.29	.881
	外国語学系（n=373）	3.41	.857
	教育学系（n=224）	3.56	.797
	自然科学系（n=859）	3.23	.860
	芸術系（n=195）	3.43	.923
	医療系（n=426）	3.52	.930
	その他（n=201）	3.32	.892
	合計（n=3,742）	3.36	.880

問23　あなたは、ドイツ語の授業では何を学びたいと思いますか。それぞれについて、５（そう思う）～１（そう思わない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

問23は、学習者がドイツ語の授業で何を学びたいと思っているかを、「５（そう思う）～１（そう思わない）」の5件法で調査したものである。「5」あるいは「4」を選んだ割合が高い項目は、「日常的な会話」（88.3%）、「聞いた内容を大まかに理解する」（83.2%）、「大意をつかんで読む」（78.6%）、「正確に読み解く」（70.8%）、さらに、「正確に聞き取る」（69.9%）、「自分のことを表現する」（67.8%）、「日本語に訳す」（67.3%）、「ドイツ語圏の社会・文化に関する知識」（66.1%）、「文法についての知識」（61.1%）であった。これに対して、「5」あるいは「4」を選んだ割合が低い項目は、「プレゼンテーションをする」（20.6%）、「ディスカッションをする」（27.1%）、「たくさん文章を書く」（32.9%）、「自文化について説明できる」（39.3%）であった。（図表Ⅱ-23a）

＜図表Ⅱ-23a＞ドイツ語の授業で学びたいと思う内容



各項目の平均値をみると、「日常的な会話」(4.45)、「聞いた内容の大まかな理解」(4.26)、「大意をつかんで読む」(4.15) が高い値を示した。その一方で、「ディスカッションをする」(2.97)、「プレゼンテーションをする」(2.97) は、3.0以下の値となった。平均値が下がるにつれ、標準偏差が大きくなる傾向がみられ、意見の散らばりが大きいと思われる。(図表Ⅱ-23b)

＜図表Ⅱ-23b＞ドイツ語の授業で学びたいと思う内容:平均値と標準偏差

	平均値	標準偏差
日常的な会話	4.45	.779
聞いた内容を大まかに理解する	4.26	.818
大意をつかんで読む	4.15	.857
正確に読み解く	3.96	.931
正確に聞き取る	3.94	.943
自分のことを表現する	3.92	.998
日本語に訳す	3.86	.953
ドイツ語圏の社会・文化に関する知識	3.85	1.015
文法についての知識	3.73	1.006
きれいに発音する	3.68	1.042
新聞・雑誌の記事が読める	3.57	1.044
正確な文章を書く	3.54	1.023
テレビ・ラジオのニュースを理解する	3.53	1.045
詩や小説などの文学作品を楽しむ	3.28	1.202
自文化について説明できる	3.23	1.110
たくさん文章を書く	3.13	1.040
ディスカッションをする	2.97	1.081
プレゼンテーションをする	2.73	1.096

ドイツ語の授業で学習者が学びたいと思う内容について、上記の18の個々の質問に対する回答傾向から、どのような潜在的な共通要因が存在するかを統計的に分析（因子分析）した。その結果、以下の4つの要因を得ることができた：

1．**「話しことば」に関すること**（「日常的な会話」「聞いた内容を大まかに理解する」など）
2．**「書きことば」に関すること**（「正確に読み解く」「日本語に訳す」など）
3．**「最新情報の受容」**（「新聞・雑誌の記事が読める」「テレビ・ラジオのニュースを理解する」）
4．**「積極的運用」に関すること**（「ディスカッションをする」「プレゼンテーションをする」）

4つの要因を平均値で比較した結果、「『話しことば』に関すること」が4.05ともっとも高く、「『書きことば』に関すること」（3.77）、「最新情報の受容」（3.55）と続き、「『積極的運用』に関すること」は2.85ともっとも低かった。標準偏差をみると、「『話しことば』に関すること」が相対的に低い値を示していることから、「話しことば」を学ぶことに関する学習者内の意見の散らばりは小さく、「最新情報の受容」や「積極的運用」については意見の散らばりが相対的に大きいことがうかがえる。（図表Ⅱ-23c）

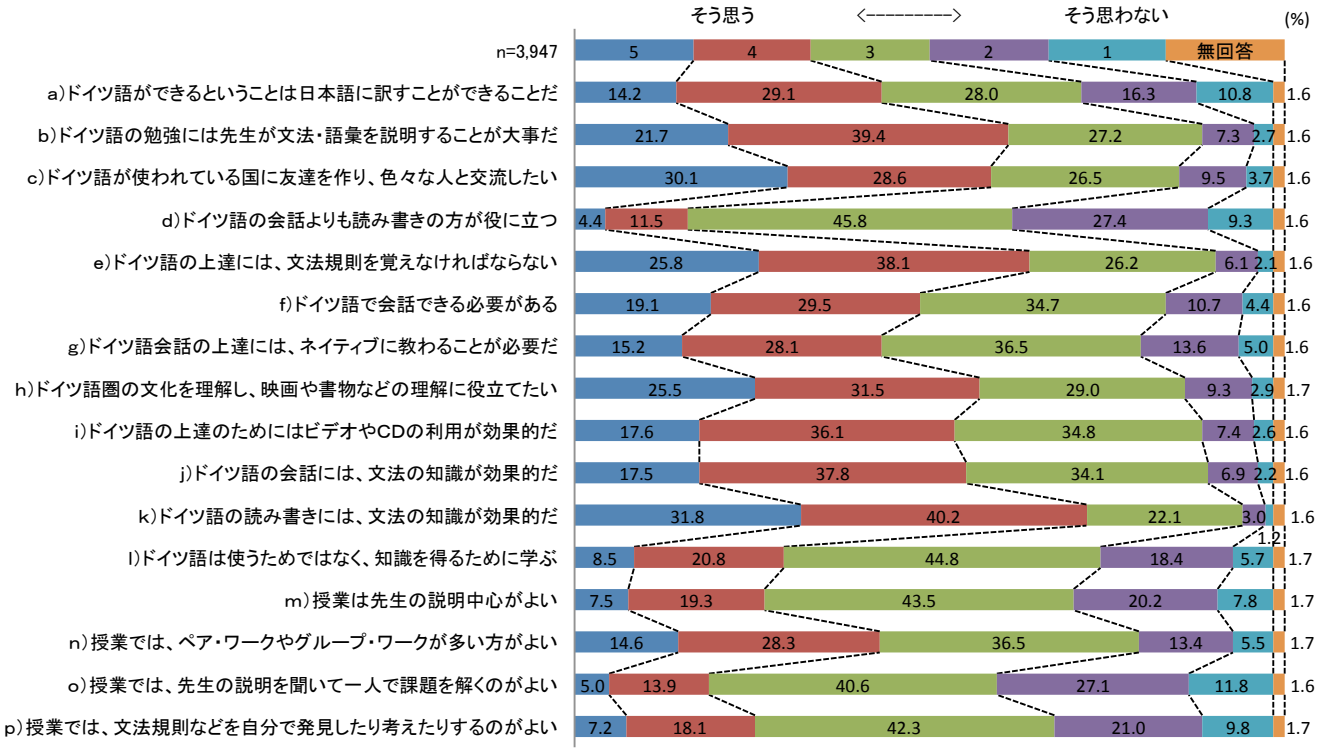
＜図表Ⅱ-23c＞ドイツ語の授業で学びたいと思う内容：各要因の平均値と標準偏差

	平均値	標準偏差
「話しことば」に関すること	4.05	.695
「書きことば」に関すること	3.77	.781
「最新情報の受容」	3.55	.985
「積極的運用」に関すること	2.85	1.033

問24　ドイツ語について次のような意見があります。あなたはどう思いますか。それぞれについて、５（そう思う）～１（そう思わない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

問 24 は、ドイツ語に関するさまざまな意見に対して、学習者がどう思うかを、「５（そう思う）～１（そう思わない)」の 5 件法で調査したものである。「5」あるいは「4」を選んだ割合が高い項目は、「ドイツ語の読み書きには、文法の知識が効果的だ」（72.0%)、「ドイツの上達には、文法規則を覚えなければならない」（63.9%)、「ドイツ語の勉強には先生が文法・語彙を説明することが大事だ」（61.1%)、「ドイツ語が使われている国に友達を作り、色々な人と交流したい」（58.7%）であった。これに対して、「5」あるいは「4」を選んだ割合が低い項目は、「ドイツ語の会話よりも読み書きの方が役に立つ」（15.9%)、「授業では、先生の説明を聞いて一人で課題を解くのがよい」（18.9%)、「授業では、文法規則などを自分で発見したり考えたりするのがよい」（25.3%)、「授業は先生の説明中心がよい」（26.8%)、「ドイツ語は使うためではなく、知識を得るために学ぶ」（29.3%）であった。（図表Ⅱ-24a）

＜図表Ⅱ-24a＞ドイツ語に関する意見について



各項目の平均値をみると、「ドイツ語の読み書きには文法の知識が効果的だ」(4.00)が 4.0以上の高い値をした。この項目は、標準偏差が相対的に小さく、学習者内の意見の散らばりが比較的小さいと言える。その一方で、「先生の説明を聞いて一人で課題を解くのがよい」(2.73)、「会話よりも読み書きの方が役に立つ」(2.74)、「文法規則などを自分で発見したり考えたりするのがよい」(2.92)、「授業は先生の説明中心がよい」(2.99)は、3.0 以下の値となった。ただし、これらの項目は標準偏差が相対的に大きいことから、意見の散らばりが比較的大きいと思われる。(図表Ⅱ-24b)

＜図表Ⅱ-24b＞ドイツ語に関する意見:平均値と標準偏差

	平均値	標準偏差
ドイツ語の読み書きには、文法の知識が効果的だ	4.00	.884
ドイツ語の上達には、文法規則を覚えなければならない	3.81	.967
ドイツ語が使われている国に友達を作り、色々な人と交流したい	3.73	1.109
ドイツ語の勉強には先生が文法・語彙を説明することが大事だ	3.71	.981
ドイツ語圏の文化を理解し、映画や書物などの理解に役立てたい	3.68	1.051
ドイツ語の会話には、文法の知識が効果的だ	3.63	.928
ドイツ語の上達のためにはビデオやＣＤの利用が効果的だ	3.60	.951
ドイツ語で会話できる必要がある	3.49	1.062
ドイツ語会話の上達には、ネイティブに教わることが必要だ	3.35	1.059
授業では、ペア・ワークやグループ・ワークが多い方がよい	3.34	1.062
ドイツ語ができるということは日本語に訳すことができることだ	3.20	1.199
ドイツ語は使うためではなく、知識を得るために学ぶ	3.08	.986
授業は先生の説明中心がよい	2.99	1.012
授業では、文法規則などを自分で発見したり考えたりするのがよい	2.92	1.041
ドイツ語の会話よりも読み書きの方が役に立つ	2.74	.941
授業では、先生の説明を聞いて一人で課題を解くのがよい	2.73	1.012

ドイツ語に関する学習者の意見について、上記の16の個々の質問に対する回答傾向から、どのような潜在的な共通要因が存在するかを統計的に分析（因子分析）した。その結果、以下の3つの要因を得ることができた：

1．**「明示的な文法学習」**(「ドイツ語の読み書きには、文法の知識が効果的だ」「ドイツ語の上達には、文法規則を覚えなければならない」「ドイツ語の会話には、文法の知識が効果的だ」など)
2．**「使用のための学習」**(「ドイツ語が使われている国に友達を作り、色々な人と交流し

たい」「ドイツ語会話の上達には、ネイティブに教わることが必要だ」「ドイツ語で会話できる必要がある」など）

３．**「説明中心の知識としての学習」**（「授業は先生の説明中心がよい」「授業では、先生の説明を聞いて一人で課題を解くのがよい」「ドイツ語は使うためではなく、知識を得るために学ぶ」など）

3 つの要因を平均値で比較した結果、「明示的な文法学習」（3.79）と、「使用のための学習」（3.53）が比較的高い値を示した一方で、「説明中心の知識習得」（2.95）は、3.0 を下回る値となった。

学習者は、ドイツ語の上達には文法知識の習得が効果的であると考えていること、ドイツ語を使って人と話したいと思っていることが示された。（図表Ⅱ-24c）

＜図表Ⅱ-24c＞ドイツ語に関する意見：各要因の平均値と標準偏差

	平均値	標準偏差
「明示的な文法知識」	3.79	.745
「使用のための学習」	3.53	.688
「説明中心の知識としての学習」	2.95	.684

問 23「ドイツ語の授業で学びたいと思う内容」との関係

「ドイツ語に関する意見」と「ドイツ語の授業で学びたいと思う内容」とのあいだに関連があるかどうかを統計的に分析（相関分析）した。

その結果、学習者が「ドイツ語を学ぶのは使うためだ」（「使用のための学習」）と考えている場合には、日常的な会話や聞いた内容の大まかな理解といった「話しことば」（相関係数：.620**）に関する内容、ドイツ語でのディスカッションやプレゼンテーションを行う「積極的運用」（相関係数：.497**）、メディアを通じた「最新情報の受容」（相関係数：.473**）を中心とする授業を希望するという傾向が見られた。

また、「ドイツ語の上達のためには明示的な文法学習が効果的だ」（「明示的な文法知識」）と考えている場合には、「書きことば」（相関係数：.570**）に関する内容を望んでいる可能性が高く、「教師の説明中心の授業でドイツ語を知識として学びたい」（「説明中心の知識としての学習」）と思っている場合にも、「書きことば」（相関係数：.371**）に関する授業を希望する傾向が見られた。（**p＜.01）

Ⅲ　資料

（調査協力依頼状）

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査（教員・学習者向け）

ご協力のお願い

2014 年 6 月

日本独文学会会長　渡辺　学

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、日本独文学会では、日本の大学・短期大学・高等専門学校・高等学校におけるドイツ語教育の現状を把握すべく、ドイツ語教員・学習者を対象としたアンケート調査を実施することにいたしました。ドイツ語教育の実態について信頼のおけるデータを持つことは、今後の教育改善に向けた議論の基盤となる共通認識を獲得するうえで喫緊の課題と考えております。何卒、皆様方のご協力を賜りたく、お願いする次第です。

今回、皆様のお手元には二種類の調査票（教員向け・学習者向け）をお届けしております。

教員向け調査票は、貴学で**ドイツ語の授業を担当されている先生**に回答いただければ幸いに存じます。

学習者向け調査票は、**教員向け調査票にご回答いただいた先生が担当されているクラスの学習者**の方に回答いただきますよう、お願い申し上げます。

調査票から得られたデータはすべて統計的に処理しますので、ご回答いただいた内容から個人・組織が特定されることはありません。また調査により得られたデータは、本調査以外の目的には一切使用いたしません。

ご回答いただいた調査票は、同封いたしましたレターパック用封筒にて、

２０１４年７月５日（土）までにご投函くださいますようお願い申し上げます。

なお、データの集計はサーベイリサーチセンター社へ委託して行います。

本調査の結果は後日報告書としてとりまとめ、日本独文学会のホームページにて公表する予定です。

お問い合わせ先：日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会

E-mail: chousa-open@jgg.jp

〒170-0005　東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

URL: http://www.jgg.jp

先　生　方　へ

調査票の返送について

調査票の返送につきまして、下記のとおりご協力をお願い致します。

【返送手順】

(1)返送には、所定のレターパック用封筒（サーベイリサーチセンター社の住所が予め記載されているもの）をご利用ください。

(2)レターパック用封筒へ、下記の２種類の調査票をまとめて封入ください。

ア　「教員向け調査票」（先生がご回答なされたもの）
イ　「学習者向け調査票」（学習者の方がご回答なされたもの。複数部）

※この際に、封入漏れの無いようご注意ください。
特に、「学習者向け調査票」は、複数部となることから、
数量のご確認をよろしくお願いいたします。

(3)レターパックは、郵便窓口への差出のほか、ポストへの投かんもできます。

(4)ただし、レターパックは、**厚さ３㎝以内**と制限があります。
そのため、学習者の方の人数により、レターパック用封筒を複数同封させていただいている場合がありますので、状況に応じて、調査票の数量を分けてご返送ください。

（調査票）

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査（教員向け）

お答えの際は、以下の点にご留意ください。

1　鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
2　一部の方だけにおたずねする質問がありますが、その場合は指示に従ってお答えください。
3　回答の際は、選択肢が用意されている場合には該当の番号に○をつけ、（　）内には数字を記入してください。

Ⅰ　はじめに、あなたご自身についておたずねします。

問１　あなたの年齢をお知らせください。（１つに○）

1　20代	3　40代	5　60代
2　30代	4　50代	6　70代

問２　あなたの性別をお知らせください。（１つに○）

1　女　性	2　男　性

問３　あなたの所属機関の種別をお知らせください。（１つに○）

1　大学	4　高等専門学校
2　大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	5　高等学校
3　短期大学	

問４　あなたの所属機関の設置主体をお知らせください。（１つに○）

1　国立	2　公立	3　私立

（問３で「１　大学」と回答した方におたずねします。）

問５　あなたの所属部署をお知らせください。（１つに○）

1　人文科学系学部・大学院（文学、史学、哲学、心理学など）
2　社会科学系学部・大学院（法学、政治学、商学、経済学、経営学など）
3　外国語学系学部・大学院
4　教育学系学部・大学院（教育学部、教員養成）
5　自然科学系（理学、工学、数学、化学、物理学、生物学、農水産学など）
6　芸術系学部・大学院（美術、デザイン、音楽など）
7　医療系学部・大学院（医学、歯学、薬学、看護学など）
8　全学系センターなど（外国語教育センター、共通教育部門など）
9　その他【具体的に：　　】

【全ての方におたずねします。】

問６　あなたの勤務形態をお知らせください。（１つに○）

１　専任（任期なし）	３　非常勤
２　専任（任期つき）	４　その他【具体的に：　】

問７　あなたの母語をお知らせください。（複数回答可）

１　日本語	３　英語
２　ドイツ語	４　その他【具体的に：　】

問８　あなたの専門分野をお知らせください。（複数回答可）

１　ドイツ文学	６　地域研究
２　ドイツ語学・言語学	７　歴史学
３　ドイツ語教育	８　政治学・経済学
４　文化学	９　哲学
５　音楽・美術・芸術	10　その他【具体的に：　】

問９　あなたのドイツ語の教育歴をお知らせください。（１つに○）

１　３年未満	４　10年～20年未満
２　３年～５年未満	５　20年～30年未満
３　５年～10年未満	６　30年以上

問10　あなたの教員養成・研修講座への参加経験をお知らせください。（複数回答可）

１　日本独文学会のドイツ語教員養成・研修講座に参加した
２　Goethe-Institutの研修講座に参加した
３　日本独文学会のドイツ語教授法ゼミナールに参加した
４　その他【具体的に：　】
５　参加経験はない

問11　あなたのドイツ語圏滞在歴（合計滞在期間；ただし旅行は除く）をお知らせください。（１つに○）

１　１年未満	３　２年～５年未満
２　１年～２年未満	４　５年以上

Ⅱ　次に、調査対象クラスとその授業・学習者・教室環境についておたずねします。

問12　調査対象クラスの種類をお知らせください。以下の中から**授業の趣旨に最も近い種類を１つだけ選んで**番号に○をつけてください。（１つに○）

１　総合	７　文法
２　読解／講読	８　翻訳・通訳
３　会話／コミュニケーション	９　異文化学習
４　ライティング	10　地域研究／Landeskunde
５　リスニング	11　その他
６　検定試験対策	【具体的に：　　】

問13　調査対象クラスは、専任教員（任期つきの場合も含む）として担当していますか。それとも、非常勤教員として担当していますか。（１つに○）

１　専任教員として担当している	２　非常勤教員として担当している

問14　調査対象クラスの人数をお知らせください。（１つに○）

１　10人未満	４　30人～40人未満
２　10人～20人未満	５　40人～50人未満
３　20人～30人未満	６　50人以上　【具体的に：（　　）人】

（問３で「１　大学」と回答した方におたずねします。）

問15　調査対象クラスの学問系列をお知らせください。（１つに○）

１　人文科学系（文学、史学、哲学、心理学など）
２　社会科学系（法学、政治学、商学、経済学、経営学など）
３　外国語学系
４　教育学系（教育学部、教員養成）
５　自然科学系（理学、工学、数学、化学、物理学、生物学、農水産学など）
６　芸術系（美術、デザイン、音楽など）
７　医療系（医学、歯学、薬学、看護学など）
８　複数の学問系列が混在している
９　その他【具体的に：　　】

【全ての方におたずねします。】

問16　調査対象クラスの学年をお知らせください。（複数回答可）

１　１年次生	３　３年次生	５　５年次以上
２　２年次生	４　４年次生	

問17　調査対象クラスの週あたりのコマ数をお知らせください。（１つに○）

1　１コマ	3　３コマ	5　その他
2　２コマ	4　４コマ	（　　）

※ 1コマの長さ　（　　）分

問18　調査対象クラスのレベルをお知らせください。（１つに○）

1　いわゆる「初級」（既習時間120時間未満）
2　いわゆる「中級」（既習時間120～240時間未満）
3　いわゆる「上級」（既習時間240時間以上）

※ここでいう「既習時間」とは、授業開始時点での、履修者のこれまでの授業における学習時間の合計を指します。

問19　**調査対象クラスの授業では**、どのようなことに特に重点を置いていますか。以下の中から**最大３つを選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

1　日常的な会話	11　プレゼンテーションをする
2　正確に読み解く	12　詩や小説などの文学作品を楽しむ
3　日本語に訳す	13　文法についての知識
4　大意をつかんで読む	14　新聞・雑誌の記事が読める
5　正確な文章を書く	15　テレビ・ラジオのニュースを理解する
6　たくさんの文章を書く	16　自文化について説明できる
7　正確に聞き取る	17　ドイツ語圏の社会・文化に関する知識
8　聞いた内容を大まかに理解する	18　きれいに発音する
9　自分のことを表現する	19　その他
10　ディスカッションをする	【具体的に　　】

問20　調査対象クラスでは、教材は**主として**どんなものを使用していますか。（１つに○）

1　市販の教科書　→問20-1へ
2　個人または所属組織で作成したプリント教材
3　生の素材（新聞などの各種メディア・インターネットから入手したテクスト、音声、動画）
4　その他【具体的に：　　】

（問20で「１　市販の教科書」と回答した方におたずねします。）

問20-1　使用している教科書は、どこで出版されたものですか。（１つに○）

１　日本	２　ドイツ語圏	３　その他の言語圏

【全ての方におたずねします。】

問21　調査対象クラスでは、教材は自分で決めたものを使用していますか。それとも、指定されたものを使用していますか。（１つに○）

１　自分で決めたものを使用	３　その他
２　指定されたものを使用　→問21-1へ	【具体的に：　　】

（問21で「２　指定されたものを使用」と回答した方におたずねします。）

問21-1　教材は、他のクラスと共通の統一教材ですか。（１つに○）

１　はい	２　いいえ

【全ての方におたずねします。】

問22　調査対象クラスでは、授業において主にどのようなメディア（媒体）を使用していますか。（複数回答可）

１　教科書
２　プリント
３　オーディオ媒体（ＣＤ、ＭＤ、カセットテープ、その他音声ファイル）
４　ビデオ媒体（ＤＶＤ、ＶＨＳ、その他動画ファイル）
５　教師用コンピュータ（ＰＣ、ノートパソコン、タブレット端末、スマートフォン）
６　学生用コンピュータ（ＰＣ、ノートパソコン、タブレット端末、スマートフォン）
７　インターネット
８　ＯＨＰ・ＯＨＣ・書画カメラなどの資料提示器
９　その他【具体的に：　　】

問23　調査対象クラスでは、授業においてドイツ語をどの程度使用していますか。（練習や課題そのものではなく、説明部分や学習者への指示などにおいて）（１つに○）

１　９割以上	３　４割～６割未満	５　１割未満
２　６割～９割未満	４　１割～４割未満	６　使用していない

問24　調査対象クラスでは、チーム・ティーチングを導入していますか。（１つに○）

１　２人以上の教師が教室にいる形でのチーム・ティーチングを導入している
２　２クラス以上の授業が連携する形でのチーム・ティーチングを導入している （統一したコンセプトに基づき、同じ教材を使用）
３　２クラス以上の授業が連携する形でのチーム・ティーチングを導入している （統一したコンセプトに基づき、別々の教材を使用）
４　その他の形によるチーム・ティーチングを導入している
【具体的に：　　】
５　チーム・ティーチングを導入していない

（問24で「１」～「４」と回答した方におたずねします。）

問24-1　現在おこなっているチーム・ティーチングに満足していますか。又、そのようにお答えになられた理由はどのようなことでしょうか。（１つに○。それぞれについて理由も回答）

１　は　い　→【　　】
２　いいえ　→【　　】

【全ての方におたずねします。】

問25　調査対象クラスでは、どのような授業形態に重きを置いていますか。それぞれについて、５（重きを置いている）～１（重きを置いていない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

	重きを置いている 〈---------〉 重きを置いていない
a）一斉授業	５　－　４　－　３　－　２　－　１
b）グループ・ワーク	５　－　４　－　３　－　２　－　１
c）ペア・ワーク	５　－　４　－　３　－　２　－　１
d）課題への個別的取り組み	５　－　４　－　３　－　２　－　１
e）その他【具体的に：　　】	

問26　調査対象クラスでは、どのような方法で成績評価をつけていますか。評価の根拠としているものをお答えください。（複数回答可）

1　筆記による小テスト（リスニングを含む）	5　授業参加度、平常点
2　口頭による小テスト	6　定期試験・筆記（リスニングを含む）
3　レポート、作文	7　定期試験・口頭
4　発表、プレゼンテーション	8　その他【具体的に：　】

問27　調査対象クラスの学習者について、全体としてどのような印象を持っていますか。それぞれについて、５（ポジティブ）～１（ネガティブ）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

	ポジティブ〈----------〉ネガティブ
a）ドイツ語学習に対する意欲	5 － 4 － 3 － 2 － 1
b）ドイツ語学習における明確な目的意識	5 － 4 － 3 － 2 － 1
c）授業への参加度	5 － 4 － 3 － 2 － 1
d）授業外でのドイツ語学習量	5 － 4 － 3 － 2 － 1
e）履修後のドイツ語学習継続に対する期待	5 － 4 － 3 － 2 － 1
f）授業の掲げる目標の達成度	5 － 4 － 3 － 2 － 1

問28　調査対象クラスの学習者の意欲は、4月の学習開始時期と比較して、変化したと感じますか。該当する番号を○で囲んでください。（１つに○）

5　強くなった	3　どちらとも言えない	2　どちらかというと弱くなった
4　どちらかというと強くなった		1　弱くなった

（問28で「５」か「４」と答えた方におたずねします。）

問28-1　意欲が強くなった理由や原因はどこにあると思いますか。

（問28で「２」か「１」と答えた方におたずねします。）

問28-2　意欲が弱くなった理由や原因はどこにあると思いますか。

【全ての方におたずねします。】

問29　調査対象クラスの教室環境には満足していますか。（１つに○）

１　満足している	２　満足していない　→問29-1へ

（問29で「２　満足していない」と回答した方におたずねします。）

問29-1　満足していないのはなぜですか。（複数回答可）

１　机・椅子が可動型ではないから
２　ＤＶＤプレーヤーがないから
３　ブルーレイ・プレーヤーがないから
４　ＶＨＳプレーヤーがないから
５　ＣＤプレーヤーがないから
６　カセット・プレーヤーがないから
７　ＰＣがないから
８　学生用ＰＣがないから
９　インターネット接続環境がないから
10　学生が利用できるインターネット接続環境がないから
11　無線ＬＡＮがないから
12　学生が利用できる無線ＬＡＮがないから
13　学生用タブレット端末（ｉＰａｄなど）がないから
14　ＯＨＰ・ＯＨＣ・書画カメラなどの資料提示器がないから
15　電子ホワイトボードがないから
16　その他【具体的に：　】

【全ての方におたずねします。】

Ⅲ．最後に、教員としてのご自身の考えや日常の業務についておたずねします。

問30　日本におけるドイツ語教育では、学習者に何を学ばせることが重要だと思いますか。以下の中から最大3つを選んで番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

1　日常的な会話	11　プレゼンテーションをする
2　正確に読み解く	12　詩や小説などの文学作品を楽しむ
3　日本語に訳す	13　文法についての知識
4　大意をつかんで読む	14　新聞・雑誌の記事が読める
5　正確な文章を書く	15　テレビ・ラジオのニュースを理解する
6　たくさんの文章を書く	16　自文化について説明できる
7　正確に聞き取る	17　ドイツ語圏の社会・文化に関する知識
8　聞いた内容を大まかに理解する	18　きれいに発音する
9　自分のことを表現する	19　その他
10　ディスカッションをする	【具体的に：　　】

問31　あなたの日常の業務において、どのような仕事に時間がかかっていますか。それぞれについて、５（時間がかかっている）～１（時間がかかっていない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

	時間がかかっている <--------> 時間がかかっていない
a）ドイツ語以外の授業（準備・添削等を含む）	５ － ４ － ３ － ２ － １
b）ドイツ語の授業（準備・添削等を含む）	５ － ４ － ３ － ２ － １
c）授業時間外における学生への個別的対応（卒論指導等）	５ － ４ － ３ － ２ － １
d）研究活動	５ － ４ － ３ － ２ － １
e）学内業務（会議・入試等）	５ － ４ － ３ － ２ － １
f）学外業務（学会・研究会等）	５ － ４ － ３ － ２ － １

問32　あなたの日常の業務において、どのような活動にやりがいを感じますか。特にやりがいを感じるものを、**最大3つまで選び**、該当する番号を○で囲んでください。（複数回答可。３つまで○）

１　ドイツ語の授業	６　ドイツ語教育以外の分野の研究
２　ドイツ語以外の授業	７　学内業務（会議・入試等）
３　授業時間外における学生対応（卒論指導等）	８　学外業務（学会・研究会等）
４　ドイツ語教育研究	９　その他
５　ドイツ語教材開発	【具体的に：　　】

問33　ドイツ語教員として働くにあたり、どのような事柄があなたにとって、教える意欲につながりますか。それぞれについて、５（教える意欲につながる）～１（教える意欲にはつながらない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

	教える意欲につながる 〈-----〉 教える意欲にはつながらない
a）勤務校の労働条件	５ － ４ － ３ － ２ － １
b）勤務校におけるドイツ語教育の位置づけ	５ － ４ － ３ － ２ － １
c）勤務校におけるドイツ語教育のコンセプト	５ － ４ － ３ － ２ － １
d）使用教材	５ － ４ － ３ － ２ － １
e）学習者のドイツ語学習に対する意欲	５ － ４ － ３ － ２ － １
f）学習者のドイツ語レベル	５ － ４ － ３ － ２ － １
g）同僚との良好な関係	５ － ４ － ３ － ２ － １
h）その他【具体的に：　　】	

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査（学習者向け）

お答えの際は、以下の点にご留意ください。

1　鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
2　一部の方だけにおたずねする質問がありますが、その場合は指示に従ってお答えください。
3　回答の際は、選択肢が用意されている場合には該当の番号に○をつけ、（　）内には数字を記入してください。

問１　あなたは次のどれに該当しますか。（１つに○）

1　大学生
2　大学生（独語独文学系・ドイツ学系）
3　短期大学生
4　高等専門学校生
5　高校生

（大学生・短期大学生および高等専門学校生のみお答えください。）

問２　あなたの学部（専攻）は何ですか。（１つに○）

1　人文科学系（文学、史学、哲学、心理学など）
2　社会科学系（法学、政治学、商学、経済学、経営学など）
3　外国語学系
4　教育学系（教育学部、教員養成）
5　自然科学系（理学、工学、数学、化学、物理学、生物学、農水産学など）
6　芸術系（美術、デザイン、音楽など）
7　医療系（医学、歯学、薬学、看護学など）
8　その他【具体的に：　　】

【全ての方におたずねします。】

問３　あなたの年次をお知らせください。（１つに○）

1　１年次
2　２年次
3　３年次
4　４年次
5　５年次以上

問４　あなたの性別をお知らせください。（１つに○）

1　女　性
2　男　性

問５　<u>高等学校</u>で学習した（学習している）外国語は何ですか。（<u>高等専門学校生</u>の場合には、１～３年次で学習した（学習している）外国語をお答えください。）（複数回答可）

1　英語
2　ドイツ語
3　フランス語
4　スペイン語
5　中国語
6　韓国語
7　その他【具体的に：　　】

問６　ドイツ語に関する資格・検定試験のうち、持っているものに○をつけてください。（１つずつ○）

ドイツ語技能検定試験（独検）	１　５級 ２　４級 ３　３級 ４　２級	５　準１級 ６　１級 ７　持っていない
Goethe-Institut の検定試験	１　Start Deutsch 1 (A1) ２　Start Deutsch 2 (A2) ３　Goethe-Zertifikat B1 (Zertifikat Deutsch)	４　Goethe-Zertifikat B2 ５　Goethe-Zertifikat C1 ６　Goethe-Zertifikat C2 (GDS) ７　持っていない
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験 (ÖSD)	１　Grundstufe Deutsch 1 (A1) ２　Grundstufe Deutsch 2 (A2) ３　Zertifikat Deutsch (B1) ４　Mittelstufe Deutsch (B2)	５　Oberstufe Deutsch (C1) ６　Wirtschaftssprache Deutsch(C2) ７　持っていない
TestDaF	１　Niveaustufe 3 (TDN 3) ２　Niveaustufe 4 (TDN 4)	３　Niveaustufe 5 (TDN 5) ４　持っていない
その他【具体的に：　　】		

問７　これまでに英語とドイツ語以外の外国語を学習したことがありますか。（１つに○）

１　あ　る　**→問7-1へ**	２　な　い

（問７で「１　ある」と回答した方におたずねします。）

問７-1　どの外国語を学習しましたか。（１つに○）

１　フランス語	４　韓国語	７　その他
２　スペイン語	５　イタリア語	【具体的に：　　】
３　中国語	６　ロシア語	

【全ての方におたずねします。】

問８　これから新たに英語とドイツ語以外の言語を学びたいと思いますか。（１つに○）

１　思　う　**→問8-1へ**	２　思わない

（問８で「１　思う」と回答した方におたずねします。）

問８-1　どの外国語を学びたいと思いますか。（１つに○）

１　フランス語	４　韓国語	７　その他
２　スペイン語	５　イタリア語	【具体的に：　　】
３　中国語	６　ロシア語	

【全ての方におたずねします。】

問９　あなたは、**ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス等）に滞在**したことがありますか。（１つに○）

１　あ　る　→問9-1～9-3へ	２　な　い

（問９-1～問９-3は、問９で「１　ある」と回答した方におたずねします。）

問９-1　その期間はどのくらいでしたか。（複数回ある場合には、滞在期間が一番長かったものについてご回答ください。）

１　１ヶ月未満	３　３ヶ月～１年未満	５　３年以上
２　１ヶ月～３ヶ月未満	４　１年～３年未満	

問９-2　その目的は何でしたか。（１つに○）

１　旅行	３　家族の仕事の関係	５　その他
２　語学研修	４　留学	【具体的に：　　】

問９-3　その時期はいつでしたか。（１つに○）。

１　高校・高専入学前	３　大学・短期大学入学後、または
２　高校・高専１～３年次在学中	高専４年次以降

【全ての方におたずねします。】

問10　あなたは、**ドイツ語圏以外の海外への渡航経験**がありますか。（１つに○）

１　あ　る　→問10-1～10-3へ	２　な　い

（問10-1～問10-3は、問10で「１　ある」と回答した方におたずねします。）

問10-1　その期間はどのくらいでしたか。（複数回ある場合には、滞在期間が一番長かったものについてご回答ください。）

１　１ヶ月未満	３　３ヶ月～１年未満	５　３年以上
２　１ヶ月～３ヶ月未満	４　１年～３年未満	

問10-2　その目的は何でしたか。（１つに○）

１　旅行	３　家族の仕事の関係	５　その他
２　語学研修	４　留学	【具体的に：　　】

問10-3　その時期はいつでしたか。（１つに○）

１　高校・高専入学前	３　大学・短期大学入学後、または
２　高校・高専１～３年次在学中	高専４年次以降

【全ての方におたずねします。】

問11　あなたは、ドイツ語圏の社会や文化に興味がありますか。（１つに○）

１　あ　る　→問11-1へ	２　な　い

（問11で、「１　ある」と回答した方におたずねします。）

問11－１　どのような事柄に関心を持っていますか。（複数回答可）

１　科学技術や工業製品	８　自然や風土
２　政治・経済	９　日常生活や人々の暮らし方
３　歴史	10　環境問題への取り組み
４　思想・哲学	11　スポーツ
５　美術・音楽・映画・演劇	12　建物や街の姿
６　言語	13　その他
７　文学	【具体的に：　】

【全ての方におたずねします。】

問12　あなたがドイツ語を履修している理由は何ですか。（複数回答可）

１　ドイツ語圏に関心を持っているから	７　勧める人がいたから
２　ヨーロッパに対して憧れがあるから	８　履修が義務だからしかたなく
３　英語以外の言語も学習したいから	９　ドイツ語圏に旅行したいから
４　以前、学習した経験があるから	10　特別な理由なしに、なんとなく
５　専門の勉強に必要だと思うから	11　希望する外国語が未開講だから
６　将来、仕事などに役立つと思うから	12　その他
	【具体的に：　】

問13　あなたは、ドイツ語の授業を週に何コマ履修していますか。（１つに○）

１　１コマ	３　３コマ	５　５コマ
２　２コマ	４　４コマ	６　６コマ以上

問14　あなたは、授業以外でドイツ語を1週間あたりどの程度勉強していますか。

（１つに○）

１　全くしていない	３　30分～１時間程度	５　２時間～４時間程度
２　30分以内	４　１時間～２時間程度	６　４時間以上

（問14で「２」～「６」と回答した方におたずねします。）

問14-1　あなたは、勉強ではどのような手段を使っていますか。（複数回答可）

１　教科書や辞書	６　ドイツ語圏のウェブサイト
２　参考書	７　ＳＮＳ（ｿｰｼｬﾙ･ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ･ｻｰﾋﾞｽ）
３　テレビやラジオのドイツ語講座	８　ＰＣ・ノートパソコン用学習ソフト
４　ＤＶＤやＣＤなどのデジタル・メディア	９　タブレット端末・スマートフォン用アプリ
	10　その他
５　ドイツ語学習用ウェブサイト	【具体的に：　】

【全ての方におたずねします。】

問15　ドイツ語の**学習目標**についておたずねします。ドイツ語では、最終的にどのような能力を身につけたいと思いますか。以下の中から**最大３つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

1	教養としてドイツ語の基本的な知識を持つ
2	旅行に役立つ程度の基本的な会話能力
3	ドイツ語圏で基本的な生活が出来る程度の能力
4	文献を読むための基本的な能力
5	ある程度ビジネスで使える程度の能力
6	ドイツ語圏の大学に留学できる程度の能力
7	ドイツ語を使ってプライベートな交流ができる程度の能力
8	インターネット上の情報や、新聞・雑誌の内容を理解できる程度の能力
9	単位取得に十分な程度の力
10	その他【具体的に：　　】
11	特にない

問16　ドイツ語を学ぶ**意義**についておたずねします。ドイツ語を学ぶことの意義や目的として重要なのは何だと思いますか。以下の中から**最大３つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

1	専門科目の基礎教育
2	将来、社会に出たときに必要、あるいは役立つため
3	教養を高め、人間的視野を広げる
4	国際交流のための社会的要請に応える
5	日本や日本人のあり方について考える視点を学ぶ
6	言語一般に対するセンスを高める
7	知的な訓練の手段
8	実践的な外国語能力を身につける
9	外国語学習を通して異文化を理解する能力を養成する
10	その他【具体的に：　　】
11	特にない

問17　あなたは、どのようなドイツ語の授業を望みますか。以下の中から**最大３つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。３つまで○）

1	聞いたり話したりの会話中心の授業	6	ドイツ語圏の文化や社会を知る授業
2	文法・訳読中心の授業	7	できるだけドイツ語だけで行う授業
3	ネイティブ・スピーカーの授業	8	ネット上の情報などを取り入れた授業
4	「読む・書く・話す・聞く」の総合的授業	9	ＤＶＤやＣＤなどの機器を活用した授業
5	聞き取り重視の授業	10	その他【具体的に：　　】

問18　あなたは、どのような内容の教材でドイツ語を勉強したいと思いますか。以下の中から**最大５つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。５つまで○）

1	自分のことを伝えるのに使える身近な表現中心の教材
2	文法を理解し、文章が読めるようになる教材
3	旅行などにも役立つ日常会話が多い教材
4	同世代の若い人々の日常生活が分かる教材
5	自分の専門分野に関連する教材
6	詩や小説などの文学作品に触れることができる教材
7	ドイツ語圏の社会や文化が分かる教材
8	リスニングの多い教材
9	文法の説明が詳しい教材
10	リーディングの多い教材
11	スピーキングの機会が多い教材
12	ライティングが多い教材
13	その他【具体的に：　　】

問19　現在、あなたはドイツ語の学習に興味を感じていますか。（１つに○）

5	感じている	3	どちらとも言えない
4	どちらかというと感じている	2	どちらかというと感じていない
		1	感じていない

（問19で、「５」か「４」と回答した方におたずねします。）

問19-1　興味を感じるとしたらその理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

1	ドイツ語の響きやリズム	6	クラスの仲間
2	文法や文構造	7	ドイツ語圏の生活や文化情報
3	教材の内容	8	もともとドイツやドイツ語が好き
4	教師への好感	9	検定試験などの資格取得
5	授業の方法	10	その他【具体的に：　　】

（問19で、「２」か「１」と回答した方におたずねします。）

問19-2　興味を感じないとしたらその理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

1	発音が好きではない	6	クラスになじめない
2	文法や文構造などが面倒	7	ドイツやドイツ語圏に興味が持てない
3	教材に興味を感じない	8	外国や外国語に興味がない
4	教師に好感が持てない	9	勉強の負担が重い
5	授業方法が合わない	10	その他【具体的に：　　】

【全ての方におたずねします。】

問20　このクラスでの**学習開始時期**と比べて、あなたの**学習意欲は変化**しましたか。（１つに○）

５　強くなった	３　どちらとも言えない	２　どちらかというと弱くなった
４　どちらかというと強くなった		１　弱くなった

（問20で、「５」か「４」と回答した方におたずねします。）

問20-1　意欲が強くなった理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

１　授業で使用している教材	６　授業でドイツ語を使った体験
２　教員への好感	７　クラスの仲間
３　授業方法	８　自分の努力の反映
４　授業内容	９　はじめからの学習意欲が影響
５　ドイツ語を学ぶこと自体が好き	10　その他
	【具体的に：　　】

（問20で、「２」か「１」と回答した方におたずねします。）

問20-2　意欲が減退した理由や原因はどこにあると思いますか。（複数回答可）

１　授業で使用している教材	６　授業でドイツ語を使った体験
２　担当の教員	７　クラスの仲間
３　授業方法	８　自分の努力不足
４　授業内容	９　はじめからの学習意欲が影響
５　ドイツ語のむずかしさ	10　その他
	【具体的に：　　】

【全ての方におたずねします。】

問21　あなたは、現在のドイツ語クラスの履修後も、ドイツ語を学ぶつもりでいますか。（１つに○）

１　は　い　→問21-1へ	２　いいえ　→問21-2へ

（問21で「１　はい」と回答した方におたずねします。）

問21-1　その理由は何ですか。以下の中から**最大５つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。５つまで○）

1	ドイツ語が好きだから
2	ドイツ語圏に興味があるから
3	外国語を学ぶのが好きだから
4	ドイツ語で「聞いたり・話したり」する力をもっとつけたいから
5	ドイツ語で「読んだり・書いたり」する力をもっとつけたいから
6	英語以外の外国語も身につけたいから
7	ドイツ語の先生に刺激を受けたから
8	将来の仕事に役立てたいから
9	将来、旅行でドイツ語圏に行きたいから
10	ヨーロッパの歴史・文化・芸術を知る上で必要だから
11	せっかく学習したドイツ語を忘れたくないから
12	履修が義務だから
13	その他【具体的に：　　】

（問21で「２　いいえ」と回答した方におたずねします。）

問21-2　その理由は何ですか。以下の中から**最大５つまで選んで**番号に○をつけてください。（複数回答可。５つまで○）

1	続けたいが、他にやらなければければならないことが多くあるから
2	継続したいがそのためのクラスがないから
3	ドイツ語やドイツ語圏に対して興味がないから
4	もともと外国語は苦手だから
5	授業がつまらないから
6	学習の負担が重いから
7	自分の勉強ではついていけそうにないから
8	外国語は英語だけで十分だと思うから
9	良い教師に出会えなかったから
10	将来、自分にとってドイツ語が役に立ちそうに思えないから
11	評価が厳しく、単位が取りにくいように感じるから
12	必修ではないから
13	その他【具体的に：　　】

【全ての方におたずねします。】

問22　あなたは、現在のドイツ語の授業環境をどう感じますか。それぞれについて、５（そう思う）～１（そう思わない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

	そう思う<------>そう思わない
a）授業では友達同士で学びあう雰囲気がある	５ － ４ － ３ － ２ － １
b）先生が良いので、授業に行くのが楽しみだ	５ － ４ － ３ － ２ － １
c）先生はいろいろな刺激を与えてくれる	５ － ４ － ３ － ２ － １
d）先生は授業の進め方について相談に応じてくれる	５ － ４ － ３ － ２ － １
e）授業では進んで勉強できる体制がある	５ － ４ － ３ － ２ － １
f）授業では「学んだ」という達成感がある	５ － ４ － ３ － ２ － １
g）授業での自分の頑張りに満足している	５ － ４ － ３ － ２ － １

問23　あなたは、ドイツ語の授業では何を学びたいと思いますか。それぞれについて、５（そう思う）～１（そう思わない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

	そう思う<------>そう思わない
a）日常的な会話	５ － ４ － ３ － ２ － １
b）正確に読み解く	５ － ４ － ３ － ２ － １
c）日本語に訳す	５ － ４ － ３ － ２ － １
d）大意をつかんで読む	５ － ４ － ３ － ２ － １
e）正確な文章を書く	５ － ４ － ３ － ２ － １
f）たくさん文章を書く	５ － ４ － ３ － ２ － １
g）正確に聞き取る	５ － ４ － ３ － ２ － １
h）聞いた内容を大まかに理解する	５ － ４ － ３ － ２ － １
i）自分のことを表現する	５ － ４ － ３ － ２ － １
j）ディスカッションをする	５ － ４ － ３ － ２ － １
k）プレゼンテーションをする	５ － ４ － ３ － ２ － １
l）詩や小説などの文学作品を楽しむ	５ － ４ － ３ － ２ － １
m）文法についての知識	５ － ４ － ３ － ２ － １
n）新聞・雑誌の記事が読める	５ － ４ － ３ － ２ － １
o）テレビ・ラジオのニュースを理解する	５ － ４ － ３ － ２ － １
p）自文化について説明できる	５ － ４ － ３ － ２ － １
q）ドイツ語圏の社会・文化に関する知識	５ － ４ － ３ － ２ － １
r）きれいに発音する	５ － ４ － ３ － ２ － １
s）その他：【具体的に：　　】	５ － ４ － ３ － ２ － １

問24　ドイツ語について次のような意見があります。あなたはどう思いますか。それぞれについて、５（そう思う）～１（そう思わない）の該当する番号を○で囲んでください。（１つずつ○）

	そう思う 〈---〉 そう思わない
a）ドイツ語ができるということは日本語に訳すことができることだ	５－４－３－２－１
b）ドイツ語の勉強には先生が文法・語彙を説明することが大事だ	５－４－３－２－１
c）ドイツ語が使われている国に友達を作り、色々な人と交流したい	５－４－３－２－１
d）ドイツ語の会話よりも読み書きの方が役に立つ	５－４－３－２－１
e）ドイツ語の上達には、文法規則を覚えなければならない	５－４－３－２－１
f）ドイツ語で会話できる必要がある	５－４－３－２－１
g）ドイツ語会話の上達には、ネイティブに教わることが必要だ	５－４－３－２－１
h）ドイツ語圏の文化を理解し、映画や書物などの理解に役立てたい	５－４－３－２－１
i）ドイツ語の上達のためにはビデオやＣＤの利用が効果的だ	５－４－３－２－１
j）ドイツ語の会話には、文法の知識が効果的だ	５－４－３－２－１
k）ドイツ語の読み書きには、文法の知識が効果的だ	５－４－３－２－１
l）ドイツ語は使うためではなく、知識を得るために学ぶ	５－４－３－２－１
m）授業は先生の説明中心がよい	５－４－３－２－１
n）授業では、ペア・ワークやグループ・ワークが多い方がよい	５－４－３－２－１
o）授業では、先生の説明を聞いて一人で課題を解くのがよい	５－４－３－２－１
p）授業では、文法規則などを自分で発見したり考えたりするのがよい	５－４－３－２－１

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査報告書

2015 年 5 月 20 日発行

編著者　日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会

委員長　太田達也
高岡佑介（編集主幹）
生駒美喜　磯崎康太郎　Angelika Werner　神谷善弘　柴田育子
Miachel Schart　藤原三枝子　星井牧子　室井禎之　Marco Raindl　藁谷郁美

図表作成協力：磯部亜依　伊藤聡美

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603
日本独文学会
会長　渡辺　学

日本独文学会

JAPANISCHE GESELLSCHAFT FÜR GERMANISTIK

GOETHE INSTITUT